

2023年度 講義要綱

科 目	必修 2単位 講義		講 師	阿久津 摂、竹島 孝昭
授業概要	・クラスを一つの集団とみなし、集団として成長していく過程を体験学習する。 ・保育者に必要とされるコミュニケーション力を養う。 ・認定絵本士養成講座科目を学び絵本への理解を深める。(該当科目6コマ)			
授業目標	・自己洞察力を養い、安定した人間関係を養えるようにする。コミュニケーション能力を身に付ける。 ・社会人としての自己像を明確にする。 ・我が国の読書推進活動に関する施策の経緯について理解する。受講者同士の相互理解を深め絵本専門士の役割について確認する。(認定:「オリエンテーション」鈴木八重子) ・相談者の要望に応じた絵本を提案する技術を体得する。絵本の提案の前提となる、絵本に係る情報収集及び整理の方法について理解する。(認定:「絵本の世界を広げる技術③」井上まどか) ・公共図書館の行う児童サービスについて理解する。地域の読書活動推進活動における絵本をめぐる活動の展開を理解する。(認定:「絵本と出会う③」武田優) ・絵本の内容及び特質を客観的に捉えることについて理解する、書評及び紹介文の書き方を体得する。(認定:「絵本を紹介する技術②」横山雅代) ・障害者、病児及び高齢者等絵本の選択や紹介にあたり、特に配慮を必要とする人について理解する。(認定:「絵本を紹介する技術③」井上まどか) ・子どもにとって魅力的な絵本に関する空間やレイアウトについて理解する。(認定:「絵本のある空間」飯田有美)			
到達目標1	・認定絵本士養成講座科目を学び、絵本に関する総合的なプロデュース力を身につけることができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度・課題提出 50点	
到達目標2	・保育者に必要とされるコミュニケーション力を養い、進路決定に必要な基本的知識、スキルを活用できる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度50点	
授業方法	コミュニケーション力を高めるために、レクリエーションゲーム、課題解決学習、ロールプレイ、行事企画等、様々な形の学習を体験する。			
授業計画	1 オリエンテーション			
	2 コミュニケーションプログラム(1)			
	3 クラス活動(1)			
	4 カウンセリング			
	5 クラス活動(2)			
	6 産学連携			
	7 セルフコーチング(1)			
	8 セルフコーチング(2)			
	9 クラス活動(3)			
	10 クラス活動(4)			
	11 クラス活動(5)			
	12 産学連携			
	13 クラス活動(6)			
	14 クラス活動(7)			
	15 クラス活動(8)			
	16 オリエンテーション			
	17 【認定絵本士養成講座科目】「オリエンテーション」担当:鈴木八重子			
	18 コミュニケーションプログラム(2)			
	19 【認定絵本士養成講座科目】「絵本の世界を広げる技術③」担当:井上まどか 課題提出			
	20 就職にむけて(1)			
	21 産学連携			
	22 【認定絵本士養成講座科目】「絵本と出会う③」担当:武田優			
	23 【認定絵本士養成講座科目】「絵本を紹介する技術②」担当:横山雅代			
	24 【認定絵本士養成講座科目】「絵本を紹介する技術③」担当:井上まどか 課題提出			
	25 コミュニケーションプログラム(3)			
	26 クラス活動(9)			
	27 産学連携			
	28 【認定絵本士養成講座科目】「絵本のある空間」担当:飯田有美			
	29 就職にむけて(2)			
	30 クラス活動(10)			

必須テキスト	【認定絵本士科目】認定絵本士養成講座テキスト				
参考文献					
担当教員の専門分野等	井上恵理:専門は臨床心理学。臨床心理士、公認心理師として活動中。 【認定絵本士養成講座担当講師】○鈴木八重子:講座責任者　○井上まどか:絵本を活用したワークショップの企画及び実践経験を持つ者・障がい者、病児、高齢者、特に配慮を要する人及び当該者向けの絵本に精通した者　○飯田有美:書店における絵本の売り場づくり、及び、絵本の出版流通に精通した者　○武田優:図書館司書業務と、地域の読書推進活動における絵本をめぐる活動の現状に精通した者　○横山雅代:書評に関する専門的知識を有する者				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	30　%	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10　%	
	社会人としての基本	20　%	主体性 素直 思いやり	10　%	
	他者と関わる力	20　%	専門的知識・技術	10　%	

2024年度 講義要綱

科 目	コミュニケーションⅡ 必修 2単位 講義		講 師	竹島 孝昭
授業概要	・社会人としての必要な基礎力を高める。 ・保育者に必要とされるコミュニケーション力を養う。 ・認定絵本士養成講座科目を学び、絵本への理解を深める。(該当科目4コマ)			
授業目標	・社会人としての必要な知識やスキルを修得し、実践の場で生かそうとする。 ・自己洞察力を養い、安定した人間関係を養えるようにする。コミュニケーション能力を身に付ける。 ・書店における絵本の売り場作りの特性について理解する。絵本の流通について理解する。(認定:「絵本と出会う④」関本練) ・絵本が大人に与える影響について理解する。(認定:「大人の心を豊かにする絵本」細江幸世) ・絵本以外で人を楽しませる為の手法について理解する。(認定:「ホスピタリティについて学ぶ」近藤学) ・認定絵本士養成講座で修得した知識・技能・感性を生かした今後の計画活動について討議することにより、認定絵本士としての役割や行動すべき子とを理解する。(認定:「ディスカッション」なかむらしんいちろう・鈴木八重子)			
到達目標1	認定絵本士養成講座科目を学び、絵本に関する総合的なプロデュース力を身につけることができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度・課題提出 50点	
到達目標2	保育者に必要とされるコミュニケーション力と、社会人として必要な常識をもち卒業後の将来に向けた具体的な行動ができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度・課題提出 50点	
授業方法	・コミュニケーション力を高めるために、レクリエーションゲーム、課題解決学習、ロールプレイ、行事企画等、様々な形の学習を体験する。			
授業計画	1 オリエンテーション			
	2 クラス活動(1)			
	3 就職に向けて(1)			
	4 認定絵本士養成講座科目(1)「絵本と出会う④」担当:関本練			
	5 クラス活動(2)			
	6 就職に向けて(2)			
	7 認定絵本士養成講座科目(2)「大人の心を豊かにする絵本」担当:細江幸世 課題提出			
	8 認定絵本士養成講座科目(3)「ホスピタリティに学ぶ」担当:近藤学			
	9 就職に向けて(3)			
	10 就職に向けて(4)			
	11 クラス活動(3)			
	12 就職に向けて(5)			
	13 就職に向けて(6)			
	14 クラス活動(4)			
	15 クラス活動(5)			
	16 就職に向けて(7)			
	17 認定絵本士養成講座科目(4)「ディスカッション」担当:なかむらしんいちろう・鈴木八重子			
	18 クラス活動(6)			
	19 就職に向けて(8)			
	20 就職に向けて(9)			
	21 就職に向けて(10)			
	22 クラス活動(7)			
	23 クラス活動(8)			
	24 クラス活動(9)			
	25 クラス活動(10)			
	26 就職に向けて(11)			
	27 就職に向けて(12)			
	28 就職に向けて(13)			
	29 クラス活動(11)			
	30 クラス活動(12)			
必須テキスト	【認定絵本士科目】認定絵本士養成講座テキスト			
参考文献				

担当教員の 専門分野等	竹島孝昭:クラス担任、実務経験のある教員 【認定絵本士養成講座担当講師】 ○関本練:書店における絵本の売り場作り、及び、絵本の流通に出版に精通した者 ○細江幸世:絵本作家、絵本研究家、絵本をめぐる活動に精通した者 ○近藤学:子ども達を対象とした商業施設の従事者 ○なかむらしんいちろう・鈴木八重子:講座責任者			
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	20 %
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	20 %

2024年度 講義要綱

科 目	保育と外国語 必修 2単位 講義		講 師	玉置 充佳
授業概要	保育で使う基本的な英会話の習得 英語の絵本の読み聞かせに慣れ親しむ 英語の歌と手遊びに慣れ親しむ 初対面の英会話の体験 Show and Tellスキルの体験			
授業目標	保育現場で使われる様々な英語表現をアクティビティを通して習得する。 保育現場で使える手遊びを実演しながら慣れ親しむ。 英会話の基本である初対面会話を実演しながら習得する。 Show and Tell をグループワークで体験する。 英語の絵本を様々なツールを介して慣れ親しむ。			
到達目標1	現場で使える必要最低限の英語表現を使えるようになる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	筆記試験 (50%)	
到達目標2	基本的な初対面英会話と言えるようになる。 現場で使えるアクティビティ体験し、活かせるようになる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	オーラル試験 初対面会話(15%) 発表 自己紹介(10%) show&tell (10%) 提出物 ミニ絵本 (5%) 絵本 (10%)	
授業方法	保育で活用できる実践的英語の基礎知識を学習。 ・保育現場のシチュエーションに合わせた英語のコミュニケーション学習 ・幼児の英語を使った指導に使える基礎知識(歌、絵本の読み聞かせ、Show and Tell)			
授業計画	1 コミュニケーションキー 歌、褒め言葉、自己紹介			
	2 幼保英語検定 歌、励まし言葉、自己紹介パタパタ絵本と発表			
	3 オンライン 世界の幼稚園 文の構成 初対面会話			
	4 Halloween 保育で使う公園での会話”			
	5 世界のBENTO 保育で使う食事の会話”			
	6 いろいろなIntelligence フォニックス			
	7 世界のトイレ 保育で使うトイレ／身支度の会話			
	8 Valentines 保育で使うその他の場面の会話			
	9 Online Christmas 総合復習”			
	10 Easter 総合復習			
	11 筆記試験			
	12 Show and Tell			
	13 絵本の読み聞かせ			
	14 外国語			
	15 外国語			
必須テキスト	専用テキスト1冊 English for Use in Nursery Schools 保育園・幼稚園の先生に役立つ英語			
参考文献				

担当教員の 専門分野等	小学校、中学校アメリカにて就学 高校インターナショナルにて就学 [専門指導分野/指導年数] 幼児英語/20年、児童英語/40年、中高英語/30年、一般英語/30年、ビジネス英語/20年、英検/30年				
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	25 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	20 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %	
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	25 %	

2023年度 講義要綱

科 目	必修 1単位 講義		講 師	真砂 雄一
授業概要	健康を取り巻く社会状況の中で、国民一人一人が生涯にわたる心身の健康の保持増進を図るためには、疾病の発症そのものを予防するのみならず、ストレス解消やストレスへの抵抗力を増す観点からも、運動、栄養及び休養を柱とする調和のとれた生活習慣の確立が不可欠である。また、生涯にわたって豊かなスポーツライフを送るためには、運動やスポーツについての幅広い知識を身につけておくが必要になる。スポーツの意味や素晴らしさに加え、運動技能や体力を合理的に向上させるための科学的知識や方法を学び、スポーツの歴史や文化的意義などを総合的に捉え、体育の必要性を考えていく。			
授業目標	・生涯にわたり有意義な人生を送るために、健康なライフスタイル(生活様式)を確立することは重要であり、そのための健康・スポーツについての基礎知識を身につける。 ・誕生からの一生涯にわたるからだの発達と加齢のプロセスを理解できるようになる。 ・授業で修得した知識や態度が、個人の日常生活で活用され、より健康で豊かな生活が営めるようになる。			
到達目標1	健康・スポーツについての基礎知識を身につけ、理解し、具体的に説明できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度(15点)、講義内容に関する小レポート(20点)	
到達目標2	誕生からの一生涯にわたるからだの発達と加齢のプロセスを理解できる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度(15点)、講義内容に関する筆記試験(50点)	
授業方法	授業は、オンラインで行う講義と対面での講義・演習のアクティブラーニング・スタイルで行う。 授業で学んだ知識を日常生活に取り入れ、自身の健康について考える機会としてもらいたい。 ※社会情勢や進行状況に合わせ内容や順番を適宜変更する。			
授業計画	1 ガイダンス・スポーツとは 2 遊具と安全環境 3 様々な環境下における運動 4 年代別に応じた運動の指導法 5 トレーニング(オンライン) 6 産学連携 7 幼児期に必要な運動 8 応急処置 9 人体の構造と機能 10 運動と健康 11 生活習慣病(オンライン) 12 産学連携 13 体力 14 運動神経とは 15 まとめ、振り返り			
必須テキスト	特になし(授業中に配布、オンライン上に資料を掲示)			
参考文献	授業内で適宜紹介する			
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。現在短大にて、幼児体育や健康を担当する准教授として勤務。小学校で体育テクニカルアドバイザーの経験あり。保育園にて運動指導アドバイザー。専門分野:幼児体育、身体表現、健康科学			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10% %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10% %
	社会人としての基本	10% %	主体性 素直 思いやり	20% %
	他者と関わる力	20% %	専門的知識・技術	30% %

2024年度 講義要綱

科 目	体育実技		必修 1単位 講義	講 師	高見 美恵子
授業概要	乳幼児期・児童期に必要かつ効果的な、「コーディネーション運動」及び、子どもたちが楽しみながら参加するための実践技法である、「共感するコーチング」について理解し実践できる技能を身につける。				
授業目標	1. コーディネーション運動と関連する科学的根拠についての知識を習得する。 2. 共感するコーチングと関連する科学的根拠についての知識を習得する。 3. 共感するコーチングを活用しコーディネーション運動を実践する。 4. 立てたねらいに沿った実践案を作成し実践する。				
到達目標1	コーディネーション運動と共感するコーチングおよび関連する科学的根拠について具体的に説明できる。		到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度(20点)、講義内容に関する筆記試験(30点)	
到達目標2	各コーディネーション能力を向上する実践案の作成と共感するコーチングを活用した実技の実践ができる		到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	グループ学習の主体性(15点)、実践案(15点)、実技試験・振り返りシート(20点)	
授業方法	実技、グループ学習、オンライン授業を含む				
授業計画	1 オリエンテーション(授業概要・目標・評価・持物等の説明、授業の進め方の確認)				
	2 乳幼児期・児童期におけるコーディネーション運動の重要性				
	3 コーディネーション運動【5つの能力】				
	4 コーディネーション運動【5つの形式】				
	5 コーディネーション運動【遊びの4要素】				
	6 実践技法【共感するコーチング理論】①				
	7 実践技法【共感するコーチング理論】②				
	8 コーディネーション運動の展開				
	9 実技試験チーム分け、実践案作成①				
	10 実践案作成②				
	11 筆記試験				
	12 実践案作成③と練習				
	13 実技試験と振り返り①				
	14 実技試験と振り返り②				
	15 実技試験と振り返り③				
必須テキスト	楽しみながら運動能力が身につく！ 幼児のためのコーディネーション運動 明治図書出版株式会社				
参考文献					
担当教員の専門分野等	「実技経験のある教員による授業」に該当。 保育園・地域学習センター・児童館・主催教室などの親子・幼児・児童・シニア対象講座にてコーディネーション運動講師を担当。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	20 %	
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	30 %	

2023年度 講義要綱

科 目	日本語		必修 1単位 講義	講 師	橋本 千鶴
授業概要	人間の言語能力である「話すこと」「聞くこと」「書くこと」「読むこと」のそれぞれの特徴を理解し、保育者として求められる基礎的な言語能力の向上を目指す。実習や保育現場での対応を想定して、4つの言語能力を具体的な場面から考える。				
授業目標	1.「話すこと」自分の考えや思いを分かりやすく表現する。 2.「聞くこと」相手の言いたいことを的確に把握する。 3.「書くこと」自分の伝えたいことを明確に表現する。 4.「読むこと」書いてある内容を正確に理解し、適切に口頭で表現する。				
到達目標1	自分の考えや思いを、相手意識・目的意識を考えて適切に表現することができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度(20点)、課題・発表・レポート(40点)		
到達目標2	話し手や書き手の言いたいことを正確に理解し、自分の考えを明確にすることができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度(20点)、課題・レポート(20点)		
授業方法	保育者に必要な4つの言語能力について、グループワーク・ディスカッション等の体験や実技を通して実践的に学ぶ。				
授業計画	1 オリエンテーション(授業概要・目標・評価他)・【話】自己紹介・【聞】素話の紹介 2 【書】文字の正しい書き方(平仮名・漢字他) 3 【書】観察記録・実習日誌の書き方 4 【書】連絡帳の書き方 5 【書】原稿用紙の使い方・小論文の書き方 6 産学連携 7 乳幼児の言葉の発達と言語表現 8 【話】素話の発表・【話】保護者への話し方 9 【聞】カウンセリングマインドに基づく話の聞き方(1)(言語的技法) 10 【聞】カウンセリングマインドに基づく話の聞き方(2)(非言語的技法) 11 【話】子どもと楽しむ言葉遊び(1) 12 産学連携 13 【話】子どもと楽しむ言葉遊び(2)(模擬保育) 14 【読】文章の読み方(音読)・【読】絵本の読み聞かせ 15 【読】昔話(解釈と言葉のおもしろさ)				
必須テキスト	特になし。				
参考文献	授業で適宜紹介。				
担当教員の専門分野等	小学校教員として長く勤務し、国語・ことば分野を重点的に研究。日本カウンセリング学会認定カウンセラー。大学等で、言葉・言語文化表現・教育相談(カウンセリング)等の授業を担当。「教師・保育者のための教育相談」(共著・萌文書林)を出版。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10% %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10% %	
	社会人としての基本	20% %	主体性 素直 思いやり	10% %	
	他者と関わる力	20% %	専門的知識・技術	30% %	

2024年度 講義要綱

科 目	情報機器の操作 必修 1単位 講義		講 師	酒井 澄
授業概要	情報に関する知識、情報機器操作の基礎知識を身につける。			
授業目標	情報社会の中でどう生きていくかを考えます。 Office (Word、PowerPoint、Excel) の基礎を身につけます。 その他、インターネットの光と影の部分を知り、自分がどうあるべきか考えます。 保育現場で活用できる映像の作り方、読み聞かせの基礎 (絵本の読み方とは異なる) などを身につけます。			
到達目標1	Office (Word、PowerPoint、Excel) の基礎を身につけます。 書類、お知らせを作る。 プレゼンテーションをする。 表計算、グラフを作る。 これらの知識を身につけ、保育に活用できるようにする。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度 (50点) パソコン操作の苦手な人がいますが、これにより評価が下がることはありません。	
到達目標2	情報に関する知識、特にインターネットの知識を身につける。 読み聞かせのこつを知る。 保育映像記録の作り方の基礎知識を知る。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度 (10点) 講義内容に関する筆記試験 (40点)	
授業方法	パソコン授業は学校のパソコンを使用していますが、自分のパソコン持ち込み可能です。Macもフォローします。 学校のパソコンはパソコン内に作ったデータを保存できません。 授業が次の週に続くとき、途中の工程を保存するために自分のUSBメモリなどを使い保存して下さい。			
授業計画	1 1回.一人ひとりのコンピュータに対する理解度を確認し、Wordの基礎から始めます。			
	2 2.3回.Word			
	3 2.3回.Word			
	4 4.5.6回.PowerPoint			
	5 4.5.6回.PowerPoint			
	6 4.5.6回.PowerPoint			
	7 7.8.9.10回.Excel			
	8 7.8.9.10回.Excel			
	9 7.8.9.10回.Excel			
	10 7.8.9.10回.Excel			
	11 11.12回.インターネットの光と影,1			
	12 11.12回.インターネットの光と影,1			
	13 13回.本の読み聞かせ (ナレーション技術)			
	14 14回.試験			
	15 15回.保育現場での、映像の活用や撮影記録の仕方。			
必須テキスト	ありません。			
参考文献	インターネットの光と影ver.6/北大路書房			
担当教員の専門分野等	1974年より映画テレビの制作会社勤務。職種:プロデューサー 担当作品:風の谷のナウシカなど。 2004年より映像制作会社を起業。職種:ディレクター&カメラマン。内容:保育や企業などの記録やプロモーションなど。			
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	50 %

2023年度 講義要綱

科 目	保育原理 必修 2単位 講義		講 師	岸 久美子	
授業概要	テキストを中心に、保育に関する法令や制度について学ぶ。 また、日本及び海外における保育の歴史について理解する。				
授業目標	1. 保育の意義について理解する。 2. 保育所保育指針における保育の基本について理解する。 3. 保育の内容と方法の基本について理解する。 4. 保育の思想と歴史の変遷について理解する。 5. 保育の現状と課題について考察する。				
到達目標1	保育に関する法令と諸制度について理解する。 また、保育の思想や歴史の変遷について、基本的な内容を理解する。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	出席(20%)+授業態度、提出物など(30%)+学期末試験(50%)＝合計100%		
到達目標2		到達目標2に対する評価 (方法及び配点)			
授業方法	テキストを用いた講義形式。必要に応じてグループワークを行なう。				
授業計画	1 ガイダンス 保育の方向性と保育実践の基礎となる発達観 2 保育に関する諸法令などからみる保育の原理 3 保育所保育指針、幼稚園教育要領、教育・保育要領にみる保育の原理 4 養護と教育の一体化について 5 (オンライン)1～4回目の振り返り及びまとめ 6 産学連携 7 保育実践の基礎構造について 8 (オンライン)多様な保育内容とその方法、子育て支援について 9 海外における保育の歴史と思想 10 日本における保育の歴史と思想 11 (オンライン)7～10回目の振り返り及びまとめ 12 産学連携 13 保育者の在り方について 14 これからの保育に向けて 15 科目まとめ				
必須テキスト	改訂版Workで学ぶ保育原理(わかば社)				
参考文献	保育所保育指針解説・平成30年3月(フレーベル館) その他、授業内で随時紹介する。				
担当教員の専門分野等	保育者養成校に、ピアノをはじめ実習等の担当として約20年勤務。現在、大学院博士後期課程において保育学を専攻。日本保育学会、日本乳幼児教育学会、日本乳幼児教育・保育者養成学会、日本学校音楽教育実践学会他に所属。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	%	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	%	
	社会人としての基本	%	主体性 素直 思いやり	%	
	他者と関わる力	%	専門的知識・技術	%	

2023年度 講義要綱

科 目	教育原理 講義		必修 2単位	講 師	難波 知希
授業概要	「教育」と呼ばれる人間の営みについて、歴史や思想、制度などに焦点を合わせながら幅広く学ぶことによって、受講者が「教育」について確かな思考を紡ぐことができるようになることを目指します。				
授業目標	・教育に関する様々な歴史・思想・制度・組織・実践・社会の諸領域との関わりなど幅広い知識を習得する。 ・習得した知識を現代の教育課題につなげて一人ひとりが考えを深められることを目指す。				
到達目標1	「教育」をめぐる諸問題について、他の受講者との議論を通して、自分なりに思考を深めることができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み状況(30点)		
到達目標2	「教育」をめぐる諸問題について、各回の講義内容を踏まえながら、客観的に論じることができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	各回に課す小テストあるいは小レポート(70点)		
授業方法	講義を基本とします。適宜視聴覚教材も使用します。また、他の受講者と議論を交わす機会も設けます。				
授業計画	1 導入／教育学概論(1):教育学的思考の基礎 2 西洋教育史(1):子どもをめぐる史的展開 3 西洋教育史(2):包摂と排除の史的展開 4 日本教育史(1):近代教育の原風景 5 日本教育史(2):近代教育の成立と展開 6 産学連携 7 日本教育史(3):戦後新教育とそのゆくえ 8 教育思想(1):近代西洋の教育思想 9 教育思想(2):近代教育批判の水脈 10 教育制度論(1):教育基本法と学校教育法 11 教育制度論(2):学習指導要領の史的変遷 12 産学連携 13 現代教師論(1):教職の特徴と専門性 14 現代教師論(2):これからの学校改革 15 教育学概論(2)／総括:教育の理論と実践				
必須テキスト	特に指定しません。				
参考文献	授業中に適宜紹介します。				
担当教員の専門分野等	近代日本教育史。近代日本における学校と国家、社会との関係について研究を深めています。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	30 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %	
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	30 %	

2023年度 講義要綱

科 目	子ども家庭福祉		必修 2単位 講義	講 師	秋山 雅代
授業概要	本授業では、子どもと子どもを取り巻く環境についての基礎的な理解を深め、福祉専門職として子ども・家庭福祉に関する現状と課題を主体的に捉えることを目的とする				
授業目標	1. 現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷について理解する。 2. 子どもの人権擁護について理解する。 3. 子ども家庭(家族)福祉の制度や実施体系等について理解する。 4. 子ども家庭(家族)福祉の現状と課題について理解する。 5. 子ども家庭(家族)福祉の福祉の展望について理解する。				
到達目標1	福祉専門職として、現在社会と子ども家庭福祉の現状や課題、福祉制度や福祉サービスの実際、展望について説明することができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業内で行う理解度を確認するための小レポートか確認テスト(50点)		
到達目標2	福祉専門職として、子どもの人権擁護について意見を述べるができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業内で行う理解度を確認するための小レポートか確認テスト(25点) 授業内でのグループ討議の内容や発表回数で評価(25点)		
授業方法	パワーポイントやレジュメ、映像資料などを用いた講義形式。				
授業計画	1 オリエンテーション 子どもや家庭を取り巻く環境の変化(1)				
	2 子どもや家庭を取り巻く環境の変化(2)				
	3 子ども家庭福祉の歴史				
	4 子ども家庭福祉の制度と法律や実施体制(1)				
	5 子ども家庭福祉の制度と法律や実施体制(2)				
	6 産学連携				
	7 少子化と子育て家庭へのサービス				
	8 子育て支援と子どもに関する諸課題 その1 子ども虐待とは				
	9 子育て支援と子どもに関する諸課題 その2 DV(ドメスティックバイオレンス)とは				
	10 子育て支援と子どもに関する諸課題 その3 ひとり親家庭に関する支援				
	11 地域における連携と協働とネットワーク				
	12 産学連携				
	13 子どもの権利保障(1)				
	14 子どもの権利保障(2)				
	15 まとめ				
必須テキスト	特に指定なし				
参考文献	講義ごとに紹介する				
担当教員の専門分野等	社会的養護、ソーシャルワーク、多職種連携				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	50% %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10% %	
	社会人としての基本	10% %	主体性 素直 思いやり	10% %	
	他者と関わる力	10% %	専門的知識・技術	10% %	

2023年度 講義要綱

科 目	社会福祉		必修 2単位 講義	講 師	久利 要子
授業概要	現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷、相談援助の実際について学ぶ。 子ども家庭支援の視点に立ち、最新動向をふまえて現場の実践に関連づけながら学習する。				
授業目標	1. 現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷、及び社会福祉における子ども家庭支援の視点について理解する。 2. 社会福祉の制度や実施体系等について理解する。 3. 社会福祉における相談援助について理解する。 4. 社会福祉における利用者保護の仕組みについて理解する。 5. 社会福祉の動向と課題について理解する。				
到達目標1	1.子育て家庭の生活課題について、現代の社会状況をふまえて広い視野で考えることができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度(30点)、講義内容に関する筆記試験(25点)		
到達目標2	2.相談援助や利用者保護の仕組みを理解し、社会福祉の今後の展望に自らの関心を向けていくことができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	提出課題(20点)、講義内容に関する筆記試験(25点)		
授業方法	講義形式。テキストの内容に関連する統計資料やプリント、映像教材なども活用していく。				
授業計画	1 オリエンテーション・社会福祉の理念と概念 2 社会福祉の歴史的変遷 3 子ども家庭支援と社会福祉 4 社会福祉の制度と法体系 5 社会福祉の実施機関 6 産学連携 7 社会福祉の専門職 8 相談保障及び関連制度の概要 9 相談援助の理論 10 相談援助の意義と機能 11 相談援助の対象と過程 12 産学連携 13 相談援助の方法と技術 14 社会福祉における利用者の保護に関わる仕組み 15 今後の展望・学習のまとめ(筆記試験)				
必須テキスト	『九訂 保育士をめざす人の社会福祉』相澤譲治編、株式会社みらい				
参考文献	『社会福祉小六法2023』ミネルヴァ書房 など(授業中に適宜、紹介します。)				
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。保育士、社会福祉士として母子生活支援施設や高齢者在宅支援の現場で相談業務を経験し、「ソーシャルワーカーとしての保育士の役割」を研究テーマとしている。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20% %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	30% %	
	社会人としての基本	10% %	主体性 素直 思いやり	10% %	
	他者と関わる力	10% %	専門的知識・技術	20% %	

2024年度 講義要綱

科 目	子ども家庭支援論		必修 2単位 講義	講 師	前川 洋子
授業概要	家庭という視点から支援のあり方を理解する。家庭生活を取り巻く様々な社会的状況について把握し、問題の所在や支援方法を学ぶ。社会福祉の視点も含み、家庭支援の基本的な知識と専門性について学ぶ。				
授業目標	1. 子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解する。 2. 保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解する。 3. 子育て家庭に対する支援の体制について理解する。 4. 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について理解する。				
到達目標1	家庭支援を基盤に保育士の行う相談等の意義と資源の活用、関係機関との連携を説明することができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度(20点)、理解度確認の小テスト課題(30点)		
到達目標2	ニーズに応じた多様な支援の展開と家庭支援の現状、課題を説明できる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	討論への貢献度(20点)、発表・レポート(30点)		
授業方法	講義型 ICTを活用した理解度チェックとフィードバックを行う。 地域の子育て家庭支援策のレポート提出と発表を行います。				
授業計画	1 1.オリエンテーション 子ども家庭支援の意義と必要性				
	2 2.家族システムと家庭 家庭機能の低下				
	3 3.保育の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義				
	4 4.保護者との相互理解と信頼関係の形成				
	5 5.保護者及び地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援				
	6 6.支援における保育士の基本的態度				
	7 7.子育て家庭の抱える課題の理解と支援家庭の状況に応じた支援				
	8 8.地域の資源の活用と自治体・関係機関との連携・協力				
	9 9.子育て家庭の福祉を図るための社会資源				
	10 10.国策・自治体の子育て支援策及び子ども家庭支援に関わる法律				
	11 11.多様な支援の展開と関係機関との連携				
	12 12.保育所等を利用する子どもの家庭への支援				
	13 13.地域の子育て家庭への支援 レポート発表1				
	14 14.要保護児童等及びその家庭に対する支援 レポート発表2				
	15 15.子ども家庭支援に関する日本の現状と課題 世界の子育て支援国際比較より 総まとめ				
必須テキスト	松本園子、永田陽子他『子ども家庭支援論』ななみ書房 2023年				
参考文献	谷田貝公昭 監修 和田上貴昭 他編著 『子ども家庭支援論』一藝社 2020年				
担当教員の専門分野等	教育カウンセラーとして子育て相談員及び社会福祉法人の第三者委員。大学通信教育テキスト『こども家庭支援論』『特別支援教育』他、『保育の心理学演習ブック』ミネルヴァ書房他出版				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	40 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %	
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	20 %	

2023年度 講義要綱

科 目	社会的養護Ⅰ		必修 2単位 講義	講 師	鴫田 陽介
授業概要	社会的養護に関する基礎的な知識(歴史や法制度など)を学ぶ。 児童虐待についての基本的な考え方や現状などを学ぶ。 要保護児童や被虐待児の特徴やその支援方法について学ぶ。 子どもの権利擁護の歴史的変遷や現在の内容について学ぶ。				
授業目標	現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷について理解する。 社会的養護の現状と課題について理解する。				
到達目標1	現代社会における社会的養護の役割と立ち位置を理解し、具体的に説明することができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度(30点) 講義内容に関する筆記試験(20点)		
到達目標2	社会的養護の現状と現在の課題について、論理的に理解し、説明することができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	レポート提出(40点) グループディスカッションへの取り組み度(10点)		
授業方法	講義中心で進めていくが、状況に応じて、事例考察やグループワークなどを取り入れて行っていく。				
授業計画	1 オリエンテーション(授業形式・成績評価について) 社会的養護を学ぶ意味と必要性				
	2 社会的養護の基本的な考え方と歴史				
	3 社会的養護に関わる法制度とその歴史				
	4 社会的養護の様々な形態				
	5 児童虐待の種類と現状				
	6 産学連携				
	7 家庭的養護ー里親とはなにか?ー				
	8 社会的養護施設の現状①ー子どもたちの生活の姿ー				
	9 社会的養護施設の現状②ー支援の原理原則ー				
	10 社会的養護施設の現状③ー愛着障害と発達障害の理解ー				
	11 社会的養護施設の現状④ー地域連携ー				
	12 産学連携				
	13 社会的養護施設の現状⑤ー関係機関との連携ー				
	14 テスト・振り返り				
	15 社会的養護施設の今後の展望				
必須テキスト	特に指定なし				
参考文献	授業内で紹介します。				
担当教員の専門分野等	実務経験のある教員による授業。児童養護施設・発達障害児支援施設での勤務経験あり。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	40% %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	20% %	
	社会人としての基本	10% %	主体性 素直 思いやり	10% %	
	他者と関わる力	10% %	専門的知識・技術	10% %	

2024年度 講義要綱

科 目	保育者論		必修 2単位 講義	講 師	菊池 一英
授業概要	保育者の役割について学び、保育の歴史の中で保育士の制度的位置づけを理解する。 また、保育士をめぐる現代的な課題について、深く知り、課題解決の方略についても、模索する。 合わせて、保育者の地域・家庭支援とそのことをめぐる、保育者の連携・協働について考察する。				
授業目標	1. 保育者の役割と倫理について理解する。 2. 保育士の制度的な位置づけを理解する。 3. 保育士の専門性について考察し、理解する。 4. 保育者の連携・協働について理解する。 5. 保育者の資質向上とキャリア形成について理解する。				
到達目標1	1. 保育者の歴史的役割と先達の保育者から、保育の専門性をめぐる資質・能力を理解することができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	グループワーク討論への参加度(20点)リアクションペーパーの提出(30点)		
到達目標2	実際の保育現場でのビデオ視聴を通して、保育者として専門的知識を生かし、保育場면을考察することができる。 合わせて、年間の保育計画を年齢発達に沿って、立てることができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	2. 保育計画の提出(20点)リアクションペーパーの提出(30点)		
授業方法	講義形式、グループワーク討論、ビデオ視聴、				
授業計画	1 オリエンテーション(授業の進め方)自己紹介、保育者を目指した理由				
	2 保育士をめぐる現状とは？5つのギフト				
	3 保育の歴史と保育者(士)の成り立ち				
	4 先達の保育者(倉橋惣三)から学ぶ				
	5 保育者を支える発達論(ポルトマン、スキャモン、リーキー、トマセロ、コーバリス)				
	6 先達の保育者(津守真)から学ぶ				
	7 先達の保育者(加用文男)から学ぶ				
	8 保育者が過ごす一日(ビデオ学習)				
	9 保育者が子どもを記録する事例研究(ドロケイ遊び①②)※十の姿を探す				
	10 保育者が身に付ける「身体性」「他者性」「共感性」ファンタジー遊びを通して(ビデオ学習)				
	11 保育者が経験する行事＜運動会＞(ビデオ学習)				
	12 保育者にとって、保護者支援とは何か？(ビデオ学習)				
	13 ①保育者が考える「理想の保育園」「保育計画」				
	14 ②保育者が考える「理想の保育園」「保育計画」				
	15 グループ発表(感想、評価、まとめ)				
必須テキスト	特になし				
参考文献	『仲間づくりのためのおもしろゲーム遊び』菊池一英メイト、他に何冊か授業内で紹介します				
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。保育所に副園長兼保育士として長年勤務。 現在幼児体育講師として保育所にスーパーバイザーとして非常勤勤務。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	30 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	20 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %	
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	20 %	

2023年度 講義要綱

科 目	保育の心理学 必修 2単位 講義		講 師	小沢 恵美子
授業概要	保育所にいる乳幼児期を中心に、子どもの発達について学習する。 今までの自分の経験と授業内容を関連させて、子どもの行動や人間の発達を理解する。			
授業目標	子どもの発達に関する心理学の基本的知識を学び、発達心理学の知識を習得する。 自分が保育者となった時のことを考えながら、授業内容を理解する。			
到達目標1	子どもの発達に関する心理学の基本的知識に基づき、 子どもの発達について具体的に説明できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	講義内容に関する筆記期試(55点)	
到達目標2	自分が保育者となった時のことを考えながら、子どもや 保護者への具体的な対応を述べることができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組みやリアクションペーパー(15点)、レ ポート(30点)	
授業方法	テキストを使いながら、授業内容をプリントにまとめていく。 可能であれば各自の考えを発表する機会なども設ける。			
授業計画	1 ガイダンス、子どもの発達と環境			
	2 情緒の発達			
	3 自我の発達			
	4 愛着の形成			
	5 愛着行動と愛着の発達			
	6 産学連携			
	7 社会的相互作用			
	8 認知の発達①			
	9 認知の発達②			
	10 コミュニケーションの発達			
	11 乳幼児期の学びにかかわる理論			
	12 産学連携			
	13 動機づけ			
	14 発達障害について			
	15 全体のまとめ			
必須テキスト	『保育の心理学 実践につなげる、子どもの発達理解』井戸ゆかり編著、萌文書林			
参考文献	授業中に適宜紹介します。			
担当教員の 専門分野等	発達心理学や教育心理学の授業を担当してきました。発達心理学でも「子ども(幼児期)」の分野に興味があります。			
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	15% %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	20% %
	社会人としての基本	10% %	主体性 素直 思いやり	15% %
	他者と関わる力	10% %	専門的知識・技術	30% %

2024年度 講義要綱

科 目	子ども家庭支援の心理学		必修 2単位 講義	講 師	森脇 晋
授業概要	様々な福祉施設の実習経験から、各現場の「実際の支援/実践」の様子、「支援の視点」「支援の特徴」等、学びをまとめて発表し、他者と共有する。子ども、子育てをめぐる現状や、多様な支援の在り方への理解を深める。				
授業目標	1. 生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解する。 2. 家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達の観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。 3. 子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解する。 4. 子どもの精神保健とその課題について理解する。				
到達目標1	自らが実習した現場の実践や、支援特徴についてまとめ、発表することができる	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	グループワークへの参加姿勢(25点)、貢献度(25点)、発表(20点)		
到達目標2	自他の発表や講義から、自らが目指す支援者像や、「家庭支援」の視点を深めることができる	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	学期末まとめシート(30点)		
授業方法	グループワークや発表を伴う講義受講 ※発表に関しては、発表者の進捗により授業回の内容が前後することがある。				
授業計画	1 オリエンテーション(授業概要・目標・方法・評価・持物・グループワークの進行等の説明) 2 グループワーク(各自の経験、実習目標に対する振り返り) 3 グループワーク(成功・失敗体験による振り返り) 4 グループワーク(バイステックの7原則による振り返り) 5 グループワーク(施設の役割・機能による振り返り) 6 グループワーク(報告書のまとめ) 7 グループワーク(相互添削) 8 グループワーク(発表資料の作成) 9 発表① 社会的養護施設(児童養護施設):子ども理解 10 発表② 社会的養護施設(乳児院/母子生活支援施設/児童相談所):子ども理解 11 発表③ 児童発達支援センター:多様な家庭とその理解 12 発表④ 障害児入所施設:子どもの生活・生育環境とその影響 13 発表⑤ 障害者入所施設:生涯発達／心の健康に関わる問題 14 発表⑥ 障害者通所施設:ライフコースと仕事・子育て 15 まとめ:施設実習を通した子ども家庭支援の心理学と自己覚知				
必須テキスト	特になし				
参考文献	授業中に適宜紹介する				
担当教員の専門分野等	母子生活支援施設の施設長として施設実習に携わってきた経験、保育養成施設の施設実習指導に関わってきた経験、保育所や施設実習先の実習担当者と連携したきた経験等をもとに、実務者教員として施設実習を通した子ども家庭支援の心理学的立場における自己覚知を支援する。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	15 %	
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	25 %	

2023年度 講義要綱

科 目	子どもの理解と援助 必修 1単位 講義		講 師	錫田 陽介
授業概要	様々な児童福祉施設で生活する子ども達の様子、現状を学ぶ中で、子どもの「発達」を捉える視点を養う。子どもの健やかな発達に必要な「環境」と「関わり」について理解を深め、その担い手になるための準備を進める。			
授業目標	1. 保育実践において、実態に応じた子ども一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義について理解する。 2. 子どもの体験や学びの過程において、子どもを理解する上での基本的な考え方を理解する。 3. 子どもを理解するための具体的な方法を理解する。 4. 子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解する			
到達目標1	子どもの育ちを支える児童福祉施設について、主要施設の概要や現状について説明できる	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	講義内容に関する筆記試験(40点)	
到達目標2	子どもの育ちを支える児童福祉施設への興味を養い、担い手となる自分をイメージし、自らに必要な準備を進めることができる	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み姿勢(20点)、講義内容に関するレポート試験(40点)	
授業方法	ワークシートを用いた講義			
授業計画	1 オリエンテーション:「子どもの理解とは？」(授業概要・目標・評価・持物等の説明) 2 子どもの育ちを支える現場を知る 3 子どもの育ちを支える現場①:乳児院 4 子どもの育ちを支えるために必要なこと①:乳児院の現場から 5 子どもの育ちを支える現場②:児童養護施設 6 産学連携週 7 子どもの育ちを支えるために必要なこと②:児童養護施設の現場から 8 子どもの育ちを支える現場③:母子生活支援施設 9 子どもの育ちを支えるために必要なこと③:母子生活支援施設の現場から 10 子どもの育ちを支える現場④:障害児入所施設 11 子どもの育ちを支える現場⑤:障害児通所施設 12 産学連携週 13 生涯にわたる支援の現場:障害者入所施設／通所施設 14 「理解と援助」のために:障害者支援施設の現場から 15 学期末試験			
必須テキスト	『ひと目でわかる 保育者のための児童家庭福祉データブック2023』全国保育士養成協議会(監修)、宮島清・山縣文治(編集)、中央法			
参考文献	授業中に適宜紹介する			
担当教員の専門分野等	実務経験のある教員による授業。児童養護施設・発達障害児支援施設での勤務経験あり。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	30 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	20 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	20 %

2023年度 講義要綱

科 目	子どもの保健 必修 2単位 講義		講 師	中村 直美
授業概要	子どもの身体の発育、発達の基本、特徴的な症状や病気について学びその知識を踏まえて子どもの心身の健康維持、増進、現状と課題について考えていく。			
授業目標	1. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。 2. 子どもの身体的な発育・発達と保健について理解する。 3. 子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解する。 4. 子どもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協働の下での適切な対応について理解する。			
到達目標1	1.子どもの身体発育、発達、特徴的な症状や病気の基本を知り、それを踏まえた乳幼児の保健的対応について、具体的に説明できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度、課題提出(20点)講義内容に関する筆記試験(30点)	
到達目標2	2.子ども特有の健康に関する問題、課題を知り健康の維持、増進について関心を持つことができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度、課題提出(20点)講義内容に関する筆記試験(30点)	
授業方法	1, パワーポイントを使用した講義形式 2, 事例ワーク等を通して保育所での保健活動の実際等を紹介			
授業計画	1 オリエンテーション(この授業で学ぶこと、授業のすすめかた等について) 2 健康の概念について 3 子どもの身体発育の特徴について 4 子どもの運動機能の発育、 原始反射について 5 新生児の理解と特徴的な病気について 6 産学連携 7 子どもの身体機能と発達の理解、特徴的な病気①(脳) 8 子どもの身体機能と発達の理解、特徴的な病気②(感覚器) 9 子どもの身体機能と発達の理解、特徴的な病気③(循環器) 10 子どもの身体機能と発達の理解、特徴的な病気④(呼吸器) 11 子どもの身体機能と発達の理解、特徴的な病気⑤(消化器) 12 産学連携 13 子どもの健康状態の観察とよくみられる症状について 14 現代社会における子どもの健康に関する現状と課題について 15 試験・まとめ			
必須テキスト	最新 保育士養成講座 第7巻 「子どもの健康と安全」			
参考文献	授業中に紹介、適宜プリントにして配布予定。			
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。専門は「小児看護」「社会福祉施設等(保育所、高齢者施設等)における感染症対応」長年、医療機関、保育所、保健所にて勤務。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20% %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10% %
	社会人としての基本	10% %	主体性 素直 思いやり	10% %
	他者と関わる力	10% %	専門的知識・技術	40% %

2023年度 講義要綱

科 目	子どもの食と栄養 必修 2単位 講義		講 師	高尾 優
授業概要	栄養に関する基礎知識を身につけ、子どもの発育・発達に必要な栄養、および成人の栄養について学び、自身の食生活についても考える力を養う。 また、保育の現場で重要な食育について学ぶ。児童福祉施設や家庭での食と栄養、食の安全、疾患のときの食と栄養、肥満ややせの子どもの食と栄養、障がいのある子どもの食と栄養についても学習する。			
授業目標	1. 健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を習得する。 2. 子どもの発育・発達と食生活の関連について理解する。 3. 養護及び教育の一体性を踏まえた保育における食育の意義・目的、基本的考え方、その内容等について理解する。 4. 家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について理解する。 5. 関連するガイドライン(※)や近年のデータ等を踏まえ、特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。 ※「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」(平成23年3月、厚生労働省)、「保育所における食事の提供ガイドライン」(平成24年3月、厚生労働省)等			
到達目標1	子どもたちをとりまく環境について考え、子どもの食生活の現状と課題について理解できる。 栄養の基礎的な知識を身に付け、保育所における食育に関する指針を理解し、食育を実践できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	出席および授業の取り組み・課題(20点)受講態度、課題の提出状況などを評価します。 前回の授業内容に関する小テスト(30点):対面授業では小テストを行います。 定期テスト(50点)	
到達目標2		到達目標2に対する評価 (方法及び配点)		
授業方法	講義および演習を行う。授業内容の復習のための小テストを実施する。			
授業計画	1 子どもの健康と食生活の意義(子どもを取り巻く環境、子どもの食生活の現状と課題) 2 栄養に関する基本的知識① 栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能 3 栄養に関する基本的知識② 消化と吸収、栄養素の代謝 4 栄養に関する基本的知識③ 栄養バランスのとれた食事、調理の基本 5 発育・発達と食生活① 小児期の発育と発達、妊娠・授乳期の栄養 6 産学連携 7 発育・発達と食生活② 乳児期の栄養(乳汁栄養・離乳栄養) 8 発育・発達と食生活③ 幼児期・学童期の食生活、生涯発達と食生活 9 食育の基本 10 児童福祉施設や家庭における食事と栄養 11 食の安全(食中毒) 12 産学連携 13 特別な配慮を要する子どもの食と栄養① 体調不良および疾病の子どもへの対応 14 特別な配慮を要する子どもの食と栄養② 食物アレルギーのある子ども、障がいのある子どもへの対応 15 定期試験			
必須テキスト	今津屋直子・久藤麻子編著 新・子どもの食と栄養 教育情報出版 2022			
参考文献				
担当教員の専門分野等	小児栄養学(食育、食物アレルギー)			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	40 %

2023年度 講義要綱

科 目	保育の計画と評価		必修 2単位 講義	講 師	佐藤 博美
授業概要	保育の計画と評価とはなにかを理解する。保育の計画と実践との関係を体験を通して学びを深め、知識を技能を身につける。				
授業目標	1. 保育の内容の充実と質の向上に資する保育の計画及び評価について理解する。 2. 全体的な計画と指導計画の作成について、その意義と方法を理解する。 3. 保育のPDCAを理解し、活用することができる。				
到達目標1	保育における保育計画の意義と重要性を理解することができる。 子ども理解に基づく保育実践を体験し、子どもはあそびにより学び、成長している事を説明することができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み(30%)、テスト(20%)		
到達目標2	子ども主体の指導計画の意味を理解し、指導計画を立案することができる	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	テスト(20%),課題 (30%)		
授業方法	講義、調べ学習、発表など				
授業計画	1 保育所指針が何かを理解し、その重要性を理解する 2 保育の計画と評価を説明することができる 3 保育所についての理解を深める 4 PDCAを説明する事ができ、自分でも使う事ができる 5 保育所の先生方の意図を考える事ができる 6 PDCAを活用する事ができる 7 ①食育の推進②災害への備え について保育所がどのようなことを行っているかを調べる。 8 子育て支援の必要性を体感する。 9 支援が点から線になる重要性について理解し、 10 指導計画作成の留意事項① 11 指導計画作成の留意事項② 12 保育士の意図を考えて見学を行う 13 指導計画に基づく保育の展開 14 保育の省察、評価と改善を実践する 15 まとめ				
必須テキスト	マンガでわかる「保育所保育指針」中央法規				
参考文献					
担当教員の専門分野等	実務経験のある教員による授業。幼稚園、保育所勤務経験。研究領域発達支援、グローバル保育。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	20 %	
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	30 %	

2023年度 講義要綱

科 目	保育内容総論 必修 1単位 講義		講 師	岸 久美子
授業概要	テキストを中心に、幼児教育における指導の方法や具体的な保育の過程について学ぶ。 また、保育現場の事例を通して、どのようにして子ども達の発達を支えているのか理解する。			
授業目標	1. 保育所保育指針における「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「保育の内容」の関連を理解する。 2. 保育所保育指針の各章のつながりを読み取り、保育の全体的な構造を理解する。 3. 子どもの発達や生活を取り巻く社会的背景及び保育の内容の歴史の変遷等を踏まえ、保育の内容の基本的な考え方を、子どもの発達や実態に即した具体的な保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)につなげて理解する。			
到達目標1	幼児の趣味や関心、発達などに応じた具体的な指導方法について理解する。 保育所保育指針等における「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「保育の内容」の関連を理解する。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	出席(20%)+授業態度、提出物等(30%)+学期末試験(50%)=100%	
到達目標2		到達目標2に対する評価 (方法及び配点)		
授業方法	テキストを用いた講義形式。必要に応じてグループワークを行なう。			
授業計画	1 ガイダンス／保育所保育指針に基づく保育の全体構造 2 保育所保育指針に基づく保育内容の理解① 3 保育所保育指針に基づく保育内容の理解② 4 小テスト／養護と教育が一体的に展開される保育 5 (オンライン)子ども主体性を尊重する保育 6 産学連携 7 保育内容の歴史の変遷とその社会的背景 8 子どもの発達や生活に即した保育内容の基本的な考え方／個と集団の発達を踏まえた保育 9 小テスト／生活や遊び、環境を通して行う総合的な保育 10 家庭や地域との連携をふまえた保育／小学校への接続を踏まえた保育 11 (オンライン) 12 産学連携 13 特別な配慮を要する子どもの保育／多文化共生の保育 14 総復習 15 科目まとめ			
必須テキスト	新基本保育シリーズ⑭保育内容総論(中央法規)			
参考文献	保育所保育指針解説、幼稚園教育要領解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(フレーベル館) その他、授業内で随時紹介する。			
担当教員の専門分野等	保育者養成校に、ピアノをはじめ実習等の担当として約20年勤務。現在、大学院博士後期課程において保育学を専攻。日本保育学会、日本乳幼児教育学会、日本乳幼児教育・保育者養成学会、日本学校音楽教育実践学会他に所属。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	%	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	%
	社会人としての基本	%	主体性 素直 思いやり	%
	他者と関わる力	%	専門的知識・技術	%

2024年度 講義要綱

科 目	保育内容演習・健康		必修 1単位 講義	講 師	土屋 みどり
授業概要	領域「健康」におけるねらいと内容を理解し、乳幼児の発達段階や取り巻く状況を踏まえ、心身の健康を育むための環境・関わり方等を学ぶ。				
授業目標	1. 養護及び教育に関わる保育の内容が、それぞれに関連性を持つことを理解し、総合的に保育を展開していくための知識・技術・判断力を習得する。 2. 子どもの発達を、保育所保育指針における乳児保育の3つの視点(「健やかに伸び伸びと育つ」「身近な人と気持ちを通じ合う」「身近なものと関わり感性が育つ」)と、1歳以上3歳未満児及び3歳以上児の保育のそれぞれ5つの領域(「健康・人間関係・環境・言葉・表現」)を通して捉え、子どもに対する理解を深めながら、保育の内容について具体的に理解する。 3. 上記2に示した保育の内容の視点及び領域を踏まえて、子どもが生活や遊びにおいて体験していることを捉えるとともに、保育に当たって保育士が留意、配慮すべき事項を理解する。 4. 子どもの発達過程に即して具体的な保育場面を想定しながら、環境の構成、教材や遊具等の活用と工夫、保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)の実際について理解する。				
到達目標1	子どもの心身の発達を理解し、その段階に応じた保育の内容について説明できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	・授業態度や発言意欲等、授業への取り組み度(20点) ・授業の理解度を確認するためのリアクションペーパーを行い、提出回数・内容で評価(30点)		
到達目標2	具体的な保育場面を想定し、環境の構成や保育士の配慮事項を含む具体的な働きかけや活動を提案できる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	・グループワークへの貢献度や内容で評価(10点) ・記述試験。講義内容を踏まえ、自分の言葉で説明できているか。保育場面を想定し実用的に考えられているか。内容で評価(40点)		
授業方法	講義、ケーススタディ、グループワーク、リアクションペーパー、記述試験など				
授業計画	1 オリエンテーション,「健康」とは 2 領域「健康」のねらい 3 領域「健康」の内容① 4 領域「健康」の内容② 5 領域「健康」の内容③ 6 領域「健康」の内容④ 7 心身の発達① 8 心身の発達② 9 発達に即した活動① 10 発達に即した活動② 11 基本的生活習慣 12 健康・安全に関する管理 13 子どもの主体性 14 試験 15 まとめ				
必須テキスト	「保育所保育指針解説」フレーベル館				
参考文献	授業中に紹介、適宜プリントにして配布する。				
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。保育士として現場経験後、保育園統括に携わる。保育士研修や保護者向けコーチング講座等の開催経験あり。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	25 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	15 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	20 %	
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	20 %	

2024年度 講義要綱

科 目	保育内容演習・人間関係 必修 1単位 講義	講 師	小林 桂子
授業概要	・乳幼児期にみられる人間関係において、多方面からの支援と自立への導きについて。 ・保育を取り巻く人間関係について、実践を踏まえ、理解を深める。 ・すぐに使えるように！人間関係に関わる手遊び、ゲーム等の技術の習得。		
授業目標	1. 養護及び教育に関わる保育の内容が、それぞれに関連性を持つことを理解し、総合的に保育を展開していくための知識・技術・判断力を習得する。 2. 子どもの発達を、保育所保育指針における乳児保育の3つの視点(「健やかに伸び伸びと育つ」「身近な人と気持ちを通じ合う」「身近なものと関わり感性が育つ」と、1歳以上3歳未満児及び3歳以上児の保育のそれぞれ5つの領域(「健康・人間関係・環境・言葉・表現」)を通して捉え、子どもに対する理解を深めながら、保育の内容について具体的に理解する。 3. 上記2に示した保育の内容の視点及び領域を踏まえて、子どもが生活や遊びにおいて体験していることを捉えたとともに、保育に当たって保育士が留意、配慮すべき事項を理解する。 4. 子どもの発達過程に即して具体的な保育場面を想定しながら、環境の構成、教材や遊具等の活用と工夫、保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)の実際について理解する。		
到達目標1	・子どもの人間関係で、「この問題から何をすることができるのか(どのような生きる力を身につけられるのか)」という視点で考えられるようになる。 ・保育事例から子どもや保護者との関わり方や取り巻く環境を考える	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	・授業への取り組み(20%) ・課題の提出(30%)
到達目標2	・「気づく力」「考える力」を事例や授業から身につける。 ・人間関係を築いていく上で「心の自立」「人と関わる力」がなぜ大切なのかを理解し、そのための支援の方法を考え、説明できる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	・課題で自分なりの気づきや考えを記入(30%) ・筆記試験(20%)
授業方法	事例等をもとに、自分なりの考えをまとめる。ロールプレイや人形劇、絵本やゲームを取り入れ技術を習得する。 必要に応じて小テスト。 毎回、チームスで記述の振り返り課題が出ます。 (対面授業に合わせて授業計画の順番が入れ替わることがあります)		
授業計画	1 授業内容についての説明。 5領域「人間関係」そして、保育や支援に興味関心が持てるような導入となる授業。 2 子どもや保護者と向き合うために自分を知ることの大切さを学びます。 アンケートで自分の思考のくせに気付いてみましょう。 また、保育にどのように活かせるかを考えましょう。 3 信用の関係と信頼の関係の違いを知り、保育で、何が大切な関係なのかを考えます。 「〇〇するなら、〇〇していいですよ」 「〇〇したから、〇〇してはいけません！」 交換条件は信用？信頼？どちらの関係でしょう？ では、保育ではどのような言葉がけが大切なのかを考えましょう。 4 「ほめられるからやる」は本当の目的ですか？「叱られるからやらない」は子どもの心に届いていますか？どのような対応ができるのか考えましょう。 5 相手が「ごめんね」と言ったら、どんなに傷ついても、辛くても「いいよ」って言わなければならないの？自分や相手の気持ちに合った対応を考えます。 6 「いじわる」には成長への大切なものが隠されています。子どもと一緒に考え、乗り越えるには、、、？「いじわる」が目の前で起きた時に、どのような対応が大切なのかを考えましょう。 7 保護者との人間関係も大切です。クレームや相談の電話も、保護者と子どもと一緒に乗り越える大切なきっかけになります。保護者が勘違いしやすい子どもの人間関係の悩みを、事例をもとに考えていきます。悩んでいる保護者にどのような対応ができるか考えましょう。 8 保育者にとって「いい子」？保護者にとって「いい子」？危険ないいい子が陥りがちな人間関係の盲点。事例をもとに、「大切なことは相手にとっていい子であることなのか？」を考えてみましょう。 9 「ヒーローごっこ(たたかいごっこ)」を事例に授業をします。「お友達の気持ちになって考えてごらん。」この言葉は子どもの心に伝わるでしょうか？トラブルは、人間関係を学べる宝の山です。何が子どもの生きる力になるのか、対応方法を考えましょう。 10 実話の絵本をもとにした授業です。「子どもは(あなたは)〜べき」という押しつけよりも大切なことは何か。「べき」は「〇〇〇」に変化すると、素晴らしい主体性を生み出します。どのような言葉がけが保育に活かせるのかを考えましょう。		

	11 ボードゲーム(アナログゲーム)は保育や療育、支援の現場で大きな効果をもたらしています。どのようなことなのか、事例をもとにゲームの楽しさや有効性を知り、どのように保育に活用できるのか、考えましょう。				
	12 その関わりは本当に子どもを尊重していますか？事例や講師の失敗談から、尊重し合う人間関係を考えましょう。				
	13 子どもはひとりひとり違う人間です。成長に必要なものは全く同じではありません。それぞれのペースで人間関係を築いていきます。受容されて来なかった場合、心が荒れてしまう子どももいます。保育者はどのように向き合っていくのかを考えましょう。				
	14 集団あそびは、子どもたちが人と関わることの楽しさを知る貴重な経験になります。「究極のイスとりゲーム」で楽しくてあたたかい人間関係を体験してみましょう！試験対策もします。				
	15 考えて答える、記述式となります。教科書、ノート、プリント等、持ち込み可です。 ※スマホを含む電気機器は持ち込み不可です。				
必須テキスト	【新版】保育内容「人間関係」 神蔵幸子・桃枝智子著 大学図書出版				
参考文献	授業中に紹介、適宜プリントにて配布します。				
担当教員の専門分野等	実務経験のある教員による授業。 幼稚園、保育、児童センター(大型児童館)、学童クラブ等、保育の現場に30年以上携わっています。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %	
	他者と関わる力	30 %	専門的知識・技術	20 %	

2024年度 講義要綱

科 目	保育内容演習・環境		必修 1単位 講義	講 師	村山 久美
授業概要	乳幼児を取り巻く環境(自然・モノ・事象・文字、記号・地域・文化)に着目し、これらが子どもの発達に重要な役割を果たすことを理解する。				
授業目標	1. 子どもを取り巻く環境を理解する。 2. 乳幼児の発達に応じた「環境」のねらい及び内容を理解する。 3. 環境構成や保育実践の展開を理解する。				
到達目標1	領域「環境」のねらい、内容を理解し、説明することができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み(20点) 講義内容に関する筆記課題(30点)		
到達目標2	保育に関する環境への関心を深め、子どもの発達に即した保育実践を考えることができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	討論への貢献度(20点) 発表、レポート(30点)		
授業方法	講義(ICTの活用、協働学習を含む)				
授業計画	1 オリエンテーション(講義の概要とねらい)				
	2 子どもを取り巻く環境				
	3 身近な環境との関わり、感性の育ち				
	4 モノともかかわりを通して生まれる育ち(学び)				
	5 自然ともかかわりを通して生まれる育ち(学び)				
	6 社会ともかかわりを通して生まれる育ち(学び)				
	7 領域「環境」のねらい及び内容				
	8 乳児保育における環境とのかかわり				
	9 モノとのかかわりを支える保育の展開				
	10 自然とのかかわりを支える保育の展開				
	11 社会とのかかわりを支える保育の展開				
	12 領域「環境」と小学校教育のつながり				
	13 現代的課題と保育				
	14 子ども・保育者・保護者の育ちあい、まとめ				
	15 試験				
必須テキスト	ミネルヴァ書房『保育内容「環境」』				
参考文献	保育所保育指針				
担当教員の専門分野等	実務経験のある教員による授業。保育所園長歴10年。「言葉」「子育て支援」「実習指導」を専門に研究。研究実績あり。『子どもの理解と援助』一藝社、第3章執筆。『子どもの文化』共感共鳴共有すること、『神奈川県保育士実技講習会 言語表現』テキスト執筆。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	20 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %	
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	30 %	

2024年度 講義要綱

科 目	必修 1単位 講義		講 師	吉田 裕子、佐藤 めぐみ
授業概要	吉田先生記入 認定絵本士養成講座科目を学び絵本への理解を深める。(該当9コマ)			
授業目標	1. 養護及び教育に関わる保育の内容が、それぞれに関連性を持つことを理解し、総合的に保育を展開していくための知識・技術・判断力を習得する。2. 子どもの発達を、保育所保育指針における乳児保育の3つの視点(「健やかに伸び伸びと育つ」「身近な人と気持ちが通じ合う」「身近なものに関わり感性が育つ」と、1歳以上3歳未満児及び3歳以上児の保育のそれぞれ5つの領域(「健康・人間関係・環境・言葉・表現」)を通して捉え、子どもに対する理解を深めながら、保育の内容について具体的に理解する。3. 上記2に示した保育の内容の視点及び領域を踏まえて、子どもが生活や遊びにおいて体験していることを捉えるとともに、保育に当たって保育士が留意、配慮すべき事項を理解する。4. 子どもの発達過程に即して具体的な保育場面を想定しながら、環境の構成、教材や遊具等の活用と工夫、保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)の実際について理解する。 ・乳幼児を対象とした絵本の特色を理解する。乳幼児が絵本に触れる為の具体的取り組みについて理解する。 ・保育、教育の現場における絵本の意義について理解する。(認定:「絵本と出会う①」「絵本と出会う②」佐藤博美・佐藤めぐみ・遠藤祐太郎・竹島孝昭・松森照幸)・子どもの興味について理解する。絵本以外のメディアを知る。(認定:「子どもの心をとらえるもの」細江幸世)・場面や目的に応じた適切なブックトーク及びビブリオトークについて理解する。場面や目的に応じた適切なブックトーク及びビブリオトークの技術を体得する。(認定:「絵本を紹介する技術①」千葉幸 絵本を活用した表現活動について理解する。絵本を活用した表現活動の基礎的技術を体得する(認定:「絵本の世界を広げる技術①」江花志乃)・「おはなし会」について理解する。「おはなし会」のプログラム作成及び運営にかかわる手法を体得する。(認定:「おはなし会の手法①」近藤千春)・「おはなし会」のテクニックについて理解する。「おはなし会」のテクニックを体得する。(認定:「おはなし会の手法②」高田ちとせ)・相談者の要望に応じた絵本を提案する技術を体得する。絵本の提案の前提となる、絵本に係わる情報収集及び整理の方法について理解する。(認定:「絵本の世界を広げる技術③」井上まどか)・各年齢期の子どもの発達と絵本の関わりについて理解する。(認定:「絵本各論③」佐藤博美・佐藤めぐみ・遠藤祐太郎)			
到達目標1	認定絵本士養成講座科目を学び絵本に関する総合的なプロデュース力を身につけることができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度・課題提出 50点	
到達目標2	[吉田先生]発達を理解し、それに合わせた言葉がけや遊びを習得する。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	[吉田先生]出席12点、態度20点、テスト18点(合計50点)	
授業方法				
授業計画	1 4/9(火)2限【認定絵本士養成講座科目】「絵本と出会う①」担当:佐藤めぐみ 2 4/16【認定絵本士養成講座科目】「絵本と出会う②」担当:佐藤めぐみ 3 4/24(水)1限【認定絵本士養成講座科目】「子どもの心をとらえるもの」担当:細江幸世 4 5/14 吉田先生①オリエンテーション 0歳児の言葉の発達と愛着形成 5 5/21 吉田先生②1.2歳児の言葉の発達、わらべうた 6 5/28【認定絵本士養成講座科目】「絵本を紹介する技術①」担当:千葉幸 課題提出 7 6/4【認定絵本士養成講座科目】「絵本の世界を広げる技術①」担当:江花志乃 8 6/11(火)2限 吉田先生③3.4歳児の言葉の発達、伝わる言葉1 9 6/12(水)1限【認定絵本士養成講座科目】「おはなし会の手法①」担当:近藤千春 課題提出 10 6/18 吉田先生④5.6歳児の言葉の発達、伝わる言葉2 11 6/25 吉田先生⑤まとめと言葉遊び実践 12 7/2 吉田先生⑥まとめ補足とテスト 13 7/9【認定絵本士養成講座科目】「おはなし会の手法②」担当:高田ちとせ 課題提出 14 7/17(水)1限【認定絵本士養成講座科目】「絵本の世界を広げる技術③」担当:井上まどか 15【認定絵本士養成講座科目】「絵本各論③」担当:佐藤めぐみ			
必須テキスト	【認定絵本士養成講座科目】 認定絵本士養成講座テキスト			
参考文献				
担当教員の専門分野等	吉田裕子 ○佐藤めぐみ・佐藤博美・遠藤祐太郎・竹島孝昭・松森照幸:赤ちゃん絵本、ブックスタートなど地域での育児支援活動や家庭での絵本の読み聞かせの現状に精通した者・保育、幼児教育現場及び学校現場における子どもと絵本の関りの現状に精通した者・子どもの知的、社会的発達と絵本の関りに関する専門的知識を有する者 ○細江幸世:絵本作家、子ども向け番組作成従事者、児童文化に精通した者○千葉幸:図書館や学校などにおいてブックトーク及びビブリオトークの実践経験をもつ者 ○江花志乃:絵本検索に係るIT技術及び図書館レファレンスサービスの双方について専門的知識を有する者○近藤千春:絵本に関する「お話会の実践経験」を10年以上持つ者 ○高田ちとせ:絵本に関する「お話会の実践経験」を10年以上持つ者 ○井上まどか:あらゆる分野の絵本について精通しており、図書館または書店等において絵本の提案を行っている実践経験を持つ者			

この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	30 %

2024年度 講義要綱

科 目	保育内容演習・表現 講義		必修 1単位	講 師	竹田 えり
授業概要	手遊び・歌遊び・リズム遊びなどを通じて子どもの表現の育ちと保育者の役割について学ぶ。様々な応用を考え、表現の幅を広げていく。劇遊び、エプロンシアター、パネルシアターなどの演技バリエーションも学ぶ				
授業目標	1. 養護及び教育に関わる保育の内容が、それぞれに関連性を持つことを理解し、総合的に保育を展開していくための知識・技術・判断力を習得する。 2. 子どもの発達を、保育所保育指針における乳児保育の3つの視点と、5つの領域を通して捉え、子どもに対する理解を深めながら、保育の内容について具体的に理解する。 3. 子どもが生活や遊びにおいて体験していることを捉えるとともに、保育に当たって保育士が留意、配慮すべき事項を理解する。 4. 子どもの発達過程に即して具体的な保育場面を想定しながら、環境の構成、教材や遊具等の活用と工夫、保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)の実践について理解する。				
到達目標1	教育実習・就業先等で即実践できる歌遊びのレパトリーを広げ、現場で幅広く対応できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	到達目標1に対する評価(方法及び配点) ◆教科書やネットなどで新しく知り得た遊びを10作品以上、レパトリーとして習得すること。 自分で作る、創作あそびも歓迎します。 授業への取り組み＋授業時間内での課題提出(45点) ＋オリジナルの遊び創作(5点)＝合計(50点) 意欲的、積極的な取り組みを評価し、期待します。		
到達目標2	具体的な保育場面を想定し、常に元気な明るい表情と声で子どもと向き合うことができる	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	到達目標2に対する評価(方法及び配点) ◆どんな場面でも積極的に明るく笑顔で人前に立てるように意識していく。 実技試験(30点) ◆毎回の授業での個人もしくはグループでの創意工夫のある発表(20点) 計50点 到達目標1+2 合計 100点		
授業方法	実践の繰り返しを重視。教科書や参考文献などの歌遊び・劇遊び・パネルシアター等を学び表現力をつける				
授業計画	1 オリエンテーション(授業概要・目標・評価・持物等の説明) 2 2回目より、3～13回の項目について、【順不同】で複合的に盛り込み進めていく。 3 色々な手遊び・歌遊び リズム遊び 春 4 色々な手遊び・歌遊び リズム遊び 夏 5 色々な手遊び・歌遊び リズム遊び 秋 6 色々な手遊び・歌遊び リズム遊び 冬 7 わらべうた ・手話ソング 8 タオルあそび 9 9. 読み聞かせ 表現方法 朗読のバリエーション 10 エプロンシアター・てぶくろシアター 11 パネルシアター ブラックパネルなどのバリエーション 12 劇遊び・オペレッタ 表現指導方法 13 劇遊び・オペレッタ(衣装作り・実演) 14 実技試験 15 総括 振り返り 卒業ソングなど				
必須テキスト	「あつまれハート」メイト社				
参考文献	CD「ハートキラキラ」「ハートハッピー」「ふれあいタオルあそび」全て図書室にあります。				
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当 長年に渡り保育士向けのセミナーや研修会で講習指導。手遊び・歌遊び・劇遊び分野を研究。オペレッタ「いつまでもともだち」「北風と太陽」他多数出版(メイト社)				
	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %	

この授業で 身につく 「6つの力」	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	20 %
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	30 %

2023年度 講義要綱

科 目	保育内容の理解と方法・身体表現遊びⅠ		必修 1単位 講義	講 師	真砂 雄一
授業概要	子ども達に運動遊びの楽しさを教えるためにも、まずは学生自身が運動遊びを体験する。 そして、子どもたちの表現と運動に関する知識を身に付ける。 環境構成について考え、展開するための技術を学ぶ。				
授業目標	1. 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。 2. 保育における教材等の活用及び作成と、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。				
到達目標1	子どもの運動、表現遊びについての基礎知識を説明できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度(30点)、講義内容に関するレポート(30点)		
到達目標2	子どもの発育発達に沿った運動遊びについて理解し、実践できる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	グループワークでの貢献度(10点)、実践発表(30点)		
授業方法	保育現場でどのような運動遊びが求められているか、実践を通し考えを深めていく。 運動遊びの援助・指導・安全管理等、環境構成、計画立案等、様々な形の学習を体験する。 対面授業は1回目からすべて7階 A71教室にて行う。 ＊社会情勢や進行状況に合わせ内容や順番を適宜変更する。				
授業計画	1 ガイダンス・からだほぐし				
	2 身体表現				
	3 ボール遊び①				
	4 リズム遊び・鬼ごっこ				
	5 幼児期に必要な運動とは①(オンライン)				
	6 産学連携				
	7 ボール遊び②				
	8 運動遊び実践の計画立案作成／グループ決め				
	9 運動遊び実践①				
	10 運動遊び実践②				
	11 幼児期に必要な運動とは②(オンライン)				
	12 産学連携				
	13 運動遊び実践③				
	14 運動遊び実践④				
	15 身体表現遊びのまとめ、振り返り				
必須テキスト	特に必要なし				
参考文献	授業中に紹介する				
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。現在短大にて、幼児体育や健康を担当する准教授として勤務。小学校で体育テクニカルアドバイザーの経験あり。保育園にて運動指導アドバイザー。専門分野: 幼児体育、身体表現、健康科学				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10% %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10% %	
	社会人としての基本	10% %	主体性 素直 思いやり	20% %	
	他者と関わる力	20% %	専門的知識・技術	30% %	

2023年度 講義要綱

科 目	保育内容の理解と方法・音楽遊びⅠ		必修 1単位 講義	講 師	木下 裕子、高橋 裕希子、山崎 洋子、浦 啓子
授業概要	子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境にも目を向け、子どもの生活と遊びを豊かに展開するための音楽表現の基礎を学び、感じたことや考えたことを自主的に表現できる力を養う。 ※個人レッスンの待機時間も含め、電子ピアノで自主練習をおこなう際、感染予防のため必ずイヤホンまたはヘッドフォンを持参してください。				
授業目標	1. 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な音楽的知識や技術を実践的に習得する。 2. 保育現場で活用できる教材を中心に、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。				
到達目標1	・教科書に沿って鍵盤楽器(ピアノ等)の基礎を学びつつ自主練習を行い、予習復習したうえで個人レッスンに臨むことが出来る。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	個人レッスンと自主練習への取り組み度(50点)、実技試験発表(50点)		
到達目標2	様々な子どもの歌を演習し互いに聞き合い、自信を持って伝えたいことが表現出来る。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	グループ演習への積極的参加度(50点)、実技試験発表(50点)		
授業方法	クラスを2つのグループに分け、45分ずつ教室を入れ替わり、ピアノを中心とした個人レッスンと歌遊びのグループレッスンとを行う。グループ分けは学生ポータルで発表されるので、各自確認すること。またオンラインの個人レッスンでは画面に手元を映すよう工夫すること。				
授業計画	1 前・後半に分かれて各教室でのオリエンテーション。(A) ②グループに分かれて45分で入れ替わる) 2 ④ピアノ等による個人レッスン／⑧歌遊びのグループレッスン。以下の項目について学生の状況に合わせて複合的に盛り込み進めていく。 3 ④ピアノ等による個人レッスン／⑧保育士に必要な音楽基礎知識(五線紙は授業内で配布する。) 4 ④ピアノ等による個人レッスン／⑧現場で役立つ声の出し方(呼吸法・発声法) 5 ④ピアノ等による個人レッスン／⑧子どもの歌の持つ役割や意義を考察する。 6 産学連携 7 ④ピアノ等による個人レッスン／⑧わらべ歌・手遊び歌の演習 8 ④ピアノ等による個人レッスン／⑧童謡・唱歌等の子どもの歌の演習 9 ④ピアノ等による個人レッスン／⑧簡単な2声のハーモニー(共働作業を楽しむ) 10 ④ピアノ等による個人レッスン／⑧リトミックを含む歌遊びの演習 11 ④ピアノ等による個人レッスン／⑧互いに聞き合い、協力してより良い表現を目指す。 12 産学連携 13 ④ピアノ等による個人レッスン／⑧個人レッスンによる苦手克服のためのアドバイス。 14 実技試験に向けてのリハーサルと個別指導 (A) ⑧共) 15 実技試験(発表会)と各自の振り返り(A)⑧共)				
必須テキスト	『現場で役立つ幼稚園教諭・保育士の為のピアノ入門』ドレミ出版 『ポケットいっぱいの歌』教育芸術社				
参考文献	随時講師が準備する。				
担当教員の専門分野等	専任:木下裕子 東京藝術大学卒業。公財日本オペラ振興会育成部第6期修了。声楽、ピアノ、合唱指導、リトミック指導。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10% %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10% %	
	社会人としての基本	10% %	主体性 素直 思いやり	20% %	
	他者と関わる力	10% %	専門的知識・技術	40% %	

2023年度 講義要綱

科 目	保育内容の理解と方法・造形遊びⅠ		必修 1単位 講義	講 師	目黒 祥元
授業概要	造形の基礎を、造形遊びの実習を通じて身につけ、基礎技能と保育における造形遊びの意味や本質について学んでゆく。				
授業目標	1. 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。 2. 保育における教材等の活用及び作成と、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。				
到達目標1	1、造形遊びを楽しんでいた子供の頃の感覚をしばし取り戻し、実習に臨んでもらいたい。この実習を通して、幼児造形で使用される教材を理解し、基礎的な技能を身につけ、まずはモダンテクニックなどの基礎的造形遊びの準備から片付けまでが出来るようになる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)		課題制作や壁面装飾などにおいて、主体的に取り組みができている。(15点) 指定課題の提出ができている。(70点) 提出作品の評価(15点) 筆記試験、追試は実施しない。	
到達目標2		到達目標2に対する評価 (方法及び配点)			
授業方法	指定課題は、授業中に提出します。また、作品は、壁面装飾にも使用します。 制作は、授業時間内に行い、持ち帰りの制作は原則認めません。				
授業計画	1 授業の進め方、課題の提出方法などについて説明。 用具、画材などについての説明。紙工作体験。 ＊状況により授業内容の予定は、変更する場合があります。 2 絵の具の基礎を水彩絵の具を使って学ぶ 3 モダンテクニックの体験 デカルコマニー ＊モダンテクニックとは、紙と絵の具、クレヨン、クレパスなどを使用したデカルコマニー、ドロッピング、ブロウイング、スクラッチなどのテクニックのことで、幼児のみならず、発展応用によって専門家も使用する平面造形の基本テクニックと言えます。まずは基礎的なテクニックを、幼児造形を念頭に置いて体験してゆきます。 4 モダンテクニック体験 糸引き絵、吹き散らし絵 5 モダンテクニック体験 ビー玉を使って 6 産学連携 7 モダンテクニック体験 ドロッピング 8 7、8で製作したモダンテクニックの課題作品を、ここでは素材として使って、はり絵をします。 壁面装飾。 9 版を作る 10 版を刷って、できた作品を壁面装飾 11 粘土で遊ぶ パルプ粘土を使用した粘土遊び 12 産学連携 13 水彩絵具で色を塗って仕上げる 14 紙コップなどを使って工作。 15 描画における発達段階の特徴を学び、体験する。				
必須テキスト					
参考文献	特に指定しないが、幼児造形に限らず、美術全般に幅広く関心を持ってもらいたい。				
担当教員の専門分野等	美術家。本校においては、資格試験の実技指導に当たる。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	5% %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10% %	
	社会人としての基本	5% %	主体性 素直 思いやり	20% %	

	他者と関わる力	10% %	専門的知識・技術	50% %
--	---------	-------	----------	-------

2024年度 講義要綱

科 目	保育内容の理解と方法・言葉遊びⅠ		必修 1単位 講義	講 師	なかむらしんいちろう、 乙川 智子
授業概要	[乙川]手話を学ぶことにより表情やコミュニケーション能力を高め、聴覚障害者・児に対する接し方を学ぶ。(該当科目3コマ) 【認定絵本士養成講座科目】を学び、絵本への理解を深める。(該当科目11コマ) 【課題作成】(該当科目1コマ)				
授業目標	1. 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。 2. 保育における教材等の活用及び作成と、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。 【認定絵本士養成講座科目】 「認定絵本士養成講座科目を学び、絵本に関する総合的なプロデュース力を身につけることができる」 ・「絵本」をめぐる行為について理解する、「絵本」の定義の捉え方について理解する、「絵本」の多面性を理解するとともに、その可能性や課題を理解する(認定:「絵本総論」課題 中村真一郎) ・世界の絵本の歴史について理解する、日本の絵本の歴史について理解する、絵本賞について理解する(認定:「絵本各論①」課題 中村真一郎・田部井佳代) ・絵本の視覚表現特性について理解する、絵本の言語表現特性について理解する(認定:「絵本各論②」課題 中村真一郎・いのうえちひろ・山田花菜) 以下、文字数に制限があり未記入。				
到達目標1	言葉(手話や絵本)に関する知識や技術を習得し実践できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み方や授業中の意欲的な学ぶ姿勢、課題提出など=合計(50点)		
到達目標2	【認定絵本士養成講座科目】認定絵本士養成講座科目を学び、絵本に関する総合的なプロデュース力を身につけることができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への熱心な取り組み。課題のある場合は期日までに提出。 50点【「絵本総論」「絵本各論①」「絵本各論②」「絵本各論④」「絵本が生まれる現場①」】は課題の提出必須。出席+課題提出で、【認定絵本士養成講座科目】に出席となります。		
授業方法	講義・実技				
授業計画	1 4/9 絵本総論(絵本とは何か)課題あり 担当:中村 2 4/16 絵本各論②(視覚表現、言語表現から見た絵本)課題あり 担当:中村 3 4/23(火)2限 [乙川]聴覚障害について(理論)、自己紹介(名前、趣味等)の表現練習 4 4/23(火)5限 絵本が生まれる現場② 担当:横山 5 5/7[乙川]聴覚障害について(理論)、自己紹介(名前、趣味等)の表現練習 6 5/21[乙川]保育園またはアルバイト先で使用する会話練習、まとめ 7 5/28 さまざまなジャンルの絵本①(物語の絵本) 担当:中村 8 6/4 絵本各論④(メディアとしての絵本の位置づけ)課題あり 担当:手塚 9 6/11 さまざまなジャンルの絵本③(科学絵本) 担当:手塚 10 6/18 絵本のもつ力(様々な角度から絵本を見る) 担当:中村 11 6/25 オンライン 課題作成 担当:中村 12 7/2 絵本が生まれる現場①(作家の感性に触れる) 課題あり 担当:中村 13 7/9 心に寄り添う絵本 担当:細江幸世 14 7/16 絵本各論①(絵本の歴史、絵本賞について)課題あり 担当:中村 15 7/23 さまざまなジャンルの絵本②(昔話童話の絵本) 担当:中村				
必須テキスト	乙川:特に指定なし【認定絵本士科目】認定絵本士養成講座テキスト				
参考文献	乙川:適宜プリントを使用する。【認定絵本士科目】適宜紹介する。				
担当教員の専門分野等	【乙川】「実務経験のある教員による授業」30年以上にわたり手話指導並びに手話通訳活動中【認定絵本士養成講座担当講師】○中村:絵本をめぐる活動に精通した者／絵本の歴史や絵本賞に関する専門的知識を有する者／絵本の視覚表現・言語表現に関する専門的知識を有する者／絵本作家、童話と作家して豊富な経験を持つ者／物語を内容とした絵本に関する専門的知識を有する者／昔話・童話を題材にした絵本に関する専門的知識を有する者 ○いのうえちひろ・山田花菜:絵本の視覚表現・言語表現に関する専門的知識を有する者／絵本作家、童話作家として豊富な経験を持つ者／物語を内容とした絵本に関する専門的知識を有する者／絵本作家、絵本の研究者、絵本をめぐる活動全般に精通した者 ○手塚けん:情報メディアとしての絵本の特性および我が国著作権制度と絵本の関わり、電子書籍と脳科学に関する専門的知識を有する者など ○千葉:科学絵本などに関する専門的知識を有する者など ○田部井佳代:絵本の歴史や絵本賞に関する専門的知識を有する者／昔話・童話を題材にした絵本に関する専門的知識を有する者 ○横山雅代:絵本・紙しばい、児童文学の編集業、以下、文字数に制限があり未記入。				

この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	0 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	0 %
	社会人としての基本	0 %	主体性 素直 思いやり	0 %
	他者と関わる力	0 %	専門的知識・技術	100 %

2023年度 講義要綱

科 目	乳児保育 I		必修 2単位 講義	講 師	佐藤 めぐみ
授業概要	・乳児保育の意義・目的と役割を学び、乳児保育の現状と課題を知る。 ・3歳未満児の発育・発達をふまえた保育を学ぶ。				
授業目標	1. 乳児保育の意義・目的と歴史的変遷及び役割等について理解する。 2. 保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。 3. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解する。 4. 乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。 ※「乳児保育」とは、3歳未満児を念頭においた保育を示す。				
到達目標1	乳児保育の意義・目的と歴史的変遷及び役割等について理解し「乳児保育」について必要な事は自ら調べることができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み(40点)、講義内容に対するテスト(40点)		
到達目標2	多岐にわたる「乳児保育」の内容について知り自分でリアクションペーパーにまとめることができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	リアクションペーパー(20点)		
授業方法	授業で学んだ範囲を自ら調べたり、感じたことをリアクションペーパーへ記入してまとめる。				
授業計画	1 オリエンテーション(授業概要・目標・評価・持ち物について等) 2 乳児保育はなぜ必要か 3 乳児保育の成り立ち 4 保育所保育指針から学ぶ 5 人生の基礎としての乳児期 6 産学連携 7 小テスト(第1回～第5回までの授業を振り返る) 8 乳児のこころの発達 9 乳児のことばの発達 10 乳児のからだ 11 乳児保育の連携 12 産学連携 13 保育所の1日の流れ 14 小テスト(第8回～第13回までの授業を振り返る) 15 まとめ				
必須テキスト	「はじめて学ぶ 乳児保育」同文書院				
参考文献	授業中に適宜紹介				
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。長年私立保育園に勤務し、主任として実習指導や職員育成に携わる。専門は「乳児保育」。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	25 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	20 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	5 %	
	他者と関わる力	5 %	専門的知識・技術	35 %	

2023年度 講義要綱

科 目	乳児保育Ⅱ		必修 1単位 講義	講 師	佐藤 めぐみ
授業概要	・乳児保育の基本を知り、乳幼児期の生活と援助の方法を体験する。 ・3歳未満児の発育、発達をふまえた保育を深める。				
授業目標	1. 3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について理解する。 2. 養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解する。 3. 乳児保育における配慮の実際について、具体的に理解する。 4. 上記1～3を踏まえ、乳児保育における計画の作成について、具体的に理解する。 ※「乳児保育」とは、3歳未満児を念頭においた保育を示す。				
到達目標1	座学で学んだ抱っこ、沐浴、着替え、授乳を適切に行える。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	実技への取り組み(40点)		
到達目標2	多岐にわたる乳児保育について知り、毎回自分でリアクションペーパーに課題をまとめることが出来る。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	リアクションペーパー(50点)、授業への取り組み(10点)		
授業方法	・講義内容から自分の考えをリアクションペーパーに記入。 ・抱っこ、沐浴、着替え等の介助を実際に行う体験型学習。				
授業計画	1 オリエンテーション(授業概要・目標・評価・持ち物等の説明)				
	2 だっこのしかた・おんぶのしかた				
	3 だっこのしかた・おんぶのしかた【実践】				
	4 乳児の衣服の基礎、衣服の着せ方・脱がせ方				
	5 おむつ替えとおむつはずれ				
	6 産学連携				
	7 赤ちゃんの着替えとおむつ替え【実践】				
	8 沐浴の仕方・清拭の仕方				
	9 沐浴の仕方・清拭の仕方【実践①】				
	10 沐浴の仕方・清拭の仕方【実践②】				
	11 乳児保育の安全管理				
	12 産学連携				
	13 授乳の仕方と離乳食の基礎知識				
	14 授乳の仕方【実践】				
	15 まとめ				
必須テキスト	「はじめて学ぶ 乳児保育」同文書院				
参考文献	授業中に適宜紹介				
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。長年私立保育園に勤務し、主任として実習指導や職員育成に携わる。専門は「乳児保育」				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	30 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	5 %	
	社会人としての基本	5 %	主体性 素直 思いやり	10 %	
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	40 %	

2023年度 講義要綱

科 目	子どもの健康と安全		必修 1単位 講義	講 師	中村 直美
授業概要	保育における健康、安全の管理に関する知識を知り、具体的な方法を体験し、自分自身や仲間と考えてみることで実践力を養っていく。				
授業目標	1. 保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解する。 2. 関連するガイドライン(※)や近年のデータ等を踏まえ、保育における衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策について、具体的に理解する。 3. 子どもの体調不良等に対する適切な対応について、具体的に理解する。 4. 関連するガイドライン(※)や近年のデータ等を踏まえ、保育における感染症対策について、具体的に理解する。 5. 保育における保健的対応の基本的な考え方を踏まえ、関連するガイドライン(※)や近年のデータ等に基づく、子どもの発達や状態等に即した適切な対応について、具体的に理解する。 6. 子どもの健康及び安全の管理に関わる、組織的取組や保健活動の計画及び評価等について、具体的に理解する。 ※「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」(平成23年3月、厚生労働省)、「2012年改訂版保育所における感染症対策ガイドライン」(平成24年11月、厚生労働省)、「教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン」(平成28年3月、内閣府・文部科学省・厚生労働省)等				
到達目標1	1.保育現場における保健的観点を踏まえた衛生管理や感染対策についての基礎知識を知り、具体的に説明できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度、課題提出(20点)講義内容についての試験(30点)		
到達目標2	2.保育現場における保健的観点を踏まえた安全管理や救急対応についての基礎知識を知り、具体的に説明できる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度、課題提出(20点)講義内容についての試験(30点)		
授業方法	パワーポイントを使用した講義で基本を学び、グループワークや演習で体験し、学習を深めていく。				
授業計画	1 オリエンテーション(この授業で学ぶこと、授業のすすめかた等について) 2 健康観察(身体測定、健康診断)と年間保健計画について 3 保育環境の整備、衛生管理について 4 子どもの事故の特徴について 5 保育所での事故防止と安全管理について 6 産学連携 7 災害への備えと危機管理について 8 体調不良や傷害の対応について 9 救急時の対応について 10 子どもと感染症①(基礎知識) 11 子どもと感染症②(標準予防策、保育所での集団発生への対応) 12 産学連携 13 子どもと感染症③(嘔吐処理の方法) 14 個別的な配慮を必要とする子どもへの対応(食物アレルギー)について 15 試験・まとめ				
必須テキスト	全国社会福祉協議会 最新 保育士養成講座第7巻 「子どもの健康と安全」				
参考文献	授業中に紹介、適宜プリントにして配布予定。				
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。専門は「小児看護」「社会福祉施設等(保育所、高齢者施設等)における感染症対応」長年、医療機関、保育所、保健所に勤務。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20% %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10% %	
	社会人としての基本	10% %	主体性 素直 思いやり	10% %	
	他者と関わる力	10% %	専門的知識・技術	40% %	

2024年度 講義要綱

科 目	障害児保育		必修 2単位 講義	講 師	今泉 岳雄
授業概要	障害児保育を支える理念や各障害の特性を理解し、保育現場やその他の場において、障害児やその保護者をどのように支援していったらよいかを学ぶ。				
授業目標	①障害児保育を支える理念を身につける。 ②各障害の特性や支援方法を理解する。 ③障害児やその保護者を援助するための指導計画を作成できる。				
到達目標1	障害児保育を支える理念を身につけ、障害児やその保護者を援助するための指導計画を作成できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	(1)授業内発表10点 (2)レポート40点		
到達目標2	各障害の特性や支援方法を説明できる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	(1)授業内発表10点 (2)レポート40点		
授業方法	講義、映像視聴、グループワーク				
授業計画	1 障害の捉え方と障害児保育の歴史 2 障害児保育の基本 3 発達障害の理解と支援① 4 発達障害児の理解と支援② 5 発達障害児の理解と支援③ 6 障害児を持つ保護者や家族に対する支援 7 知的障害の理解と支援 8 肢体不自由児の理解と支援 9 視覚障害・聴覚障害児の理解と支援 10 その他の特別な配慮を要する子どもや保護者の理解と支援 11 てんかんの理解と支援 12 知的に高い自閉症スペクトラム障害の映像視聴 13 言語障害・病弱・虚弱・食物アレルギーを持つ子どもや保護者の理解と支援 14 障害児保育を支える記録・評価・支援計画 15 障害のある子どもの保育にかかわる 現状と課題				
必須テキスト	「障害児保育・・・子どもとともに成長する保育者を目指して・・・」藤永保監修 阿部五月他著 萌文書林				
参考文献	授業中に適宜紹介、配布。				
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員の授業」臨床心理学専門。臨床心理士、公認心理師。神奈川県立の児童相談所、児童自立支援施設、日赤医療センター、東北文教大学(教授)などに勤務。「心理学のエッセンス」(日本評論社)、「ハッピー育児セラピー」(学習研究社)、「パパにもわかる子育ての本」(実業之日本社)、他出版。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	20 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %	
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	20 %	

2023年度 講義要綱

科 目	社会的養護Ⅱ		必修 1単位 講義	講 師	鴫田 陽介
授業概要	社会的養護における具体的な支援内容を学ぶ。 支援の基盤となる支援計画の作成方法を学び、実践する。 自身の価値観や考え方の傾向について演習を通して理解を深める。				
授業目標	社会的養護における支援計画及び具体的な支援方法について理解する。 自身の性格や傾向を知り、専門職としての意識を高める。				
到達目標1	社会的養護の具体的な支援方法を理解した上で、施設実習に挑む心構えを作る事ができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み(30点) 筆記試験(20点)		
到達目標2	保育士の社会的意義を理解して、どのような役割を持っているかを理解し、就職後の心構えを作ることができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業ごとのレポート(40点) ディスカッションへの参加態度(10点)		
授業方法	個人・グループでの演習を多く取り入れ、主体的な参加型の授業を行う。 授業内容を踏まえた社会的養護に関するテーマでレポートを作成する。				
授業計画	1 オリエンテーション(授業方法や成績評価)／社会的養護Ⅰの復習				
	2 社会的養護施設の子どもたちへの理解				
	3 子どもの権利				
	4 生活支援と治療的支援				
	5 自立支援とアフターケア				
	6 産学連携				
	7 子どもと向き合うということ				
	8 社会的養護を必要とする親子への理解				
	9 愛着障害児への理解と支援方法				
	10 情報収集とアセスメント				
	11 自立支援計画の作成				
	12 産学連携				
	13 ケーススタディ				
	14 テスト・振り返り				
	15 社会的養護の教科の振り返りと今後の展望				
必須テキスト	特に指定なし				
参考文献	授業内において紹介。				
担当教員の専門分野等	実務経験のある教員による授業に該当。児童養護施設・発達障害児支援施設での経験あり。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20% %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10% %	
	社会人としての基本	20% %	主体性 素直 思いやり	10% %	
	他者と関わる力	20% %	専門的知識・技術	20% %	

2024年度 講義要綱

科 目	子育て支援 必修 1単位 講義		講 師	刈岡 大起	
授業概要	支援の対象とその状況に適した支援の方法を、社会問題を含めて理解するとともに、議論をすることで自らの考えを深める。				
授業目標	1. 保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援(保育相談支援)について、その特性と展開を具体的に理解する。 2. 保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容及び方法を、実践事例等を通して具体的に理解する。				
到達目標1	保護者の置かれた状況による支援の方法の違いを認識し、行政支援を含めた保育士としての支援を理解することを目標とする。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	受講態度(20点)・発表内容(30点)		
到達目標2	保育の専門性を基盤とした子育て支援の方法を例示し、学修成果をまとめることができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	レポート課題(50点)		
授業方法					
授業計画	1 授業概要の説明				
	2 家庭を取り巻く現代社会の状況				
	3 子育て支援体制の整備				
	4 保育の場における相談援助				
	5 特別なニーズのある子どもの特性理解と子育て支援				
	6 基本的生活習慣の自立に向けた子育て支援				
	7 これからの子育てにおける食の問題				
	8 子育て支援と健康				
	9 保育所における子育て支援の実際				
	10 認定こども園における子育て支援の実際				
	11 地域への子育て支援の在り方				
	12 多様な子育て支援について				
	13 子育てを取り巻く世代間交流とスポーツプログラム				
	14 諸外国における子育て支援の現状				
	15 子育て支援に関するレポートの作成				
必須テキスト	特になし。授業内にて随時配布する。				
参考文献	保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領				
担当教員の専門分野等	専門分野:社会福祉学・子育て支援、保育実践演習				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	20 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	20 %	
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	20 %	

2023年度 講義要綱

科 目	保育実習指導 I a		必修 1単位 講義	講 師	佐藤 めぐみ
授業概要	実習日誌の記載方法を体得したり、実習に向けて具体的な準備を進め、実技の練習、心構えを養い、保育所実習を有意義なものにするために必要事項を学ぶ。				
授業目標	1. 保育実習の意義・目的を理解する。 2. 実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。 3. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。 4. 実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする。				
到達目標1	子どもや保育士に対する理解を深め、現場での実習生としての自分の姿をイメージできる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度(30点)、保育園見学への参加やそれにまつわる提出物(20点)		
到達目標2	保育所実習に臨む態度や目的意識が持つことができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	準備・発表(20点)その他提出物(10点)筆記試験(20点)		
授業方法	講義、発表、グループワークなど				
授業計画	1 保育実習の概要 2 .実習の心得 個人票作成 3 保育所の1日の流れと保育内容の理解 実習目標を立てる 4 実習日誌を書く意義と記入の仕方 5 実習日誌:エピソード記録の書き方について 6 産学連携 7 部分実習指導計画について 8 実習に伴う書類作成 事務手続きの確認 実習課題 9 オリエンテーションについて 実習日誌の書き方 10 手遊び・絵本の指導案作成 11 実習日誌:ドキュメンテーション記録について 12 産学連携 13 絵本の読み聞かせの発表・ペープサートの発表 14 まとめと振り返り 15 試験 最終確認				
必須テキスト	「フォトランゲージで学ぶ～子どもの育ちと実習日誌・指導計画～」(萌文書林) 「平成29年告示 保育所保育指針」(チャイルド社)				
参考文献					
担当教員の専門分野等	幼稚園教諭及び保育士資格を持ち、幼稚園または保育所での実務経験がある教員が、その経験に基づいた指導を行う科目である。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20% %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10% %	
	社会人としての基本	20% %	主体性 素直 思いやり	10% %	
	他者と関わる力	20% %	専門的知識・技術	20% %	

2023年度 講義要綱

科 目	保育実習指導 I b		必修 1単位 講義	講 師	錫田 陽介
授業概要	様々な施設の現場に立ち、対象者との関わりを通して学ぶ「施設実習」を行う際に必要となる知識や視点を養い、「施設実習」で得る貴重な経験を、より有意義な学びとできるよう、具体的な準備を進める。				
授業目標	1. 保育実習の意義・目的を理解する。 2. 実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。 3. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務 等について理解する。 4. 実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や 目標を明確にする。				
到達目標1	講義内容を理解し、要点をまとめ、自らの考えを文章として記すことができる	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	講義内容に関するノート提出(60点)		
到達目標2	実習に臨むにあたり、目的意識や自らの課題を具体的に記すことができる	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み姿勢(20点)、実習目標の作成(20点)		
授業方法	ノート作成を伴う講義受講				
授業計画	1 オリエンテーション(授業概要・目標・方法・評価・持物等の説明)				
	2 子どもの育ちの理解①:愛着障害(1)				
	3 子どもの育ちの理解②:愛着障害(2)				
	4 関わりの技術①:実際の実習より(ロールプレイ)				
	5 関わりの技術②:「視点」を養う				
	6 産学連携週				
	7 子どもの育ちの理解③:発達障害				
	8 関わりの技術③:療育場面より				
	9 施設実習先の発表				
	10 施設実習への具体的準備①:個人票作成、オリエンテーション準備				
	11 施設実習への具体的準備②:実習目標の作成(1)				
	12 産学連携週				
	13 施設実習への具体的準備③:実習目標の作成(2)				
	14 実習日誌の理解と練習				
	15 施設実習への具体的準備:実習前／実習中／実習後にすること				
必須テキスト	特になし				
参考文献	授業中に適宜紹介する				
担当教員の専門分野等	実務経験のある教員による授業。児童養護施設・発達障害児支援施設での勤務経験あり。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %	
	社会人としての基本	25 %	主体性 素直 思いやり	20 %	
	他者と関わる力	25 %	専門的知識・技術	10 %	

2024年度 講義要綱

科 目	保育実践演習 必修 2単位 演習			講 師	刈岡 大起
授業概要	本科目は、自身が興味のあるテーマについて調査、分析、考察、発表を行う。保育者は、子どもとその家庭に関する専門家として、保育士資格取得後も常に自己研鑽に努める姿勢が求められる。本科目は、それを見据え、保育に関する様々な物事に目を向け、幅広い視野を持って主体的に関わる姿勢を養うことを目的とする。				
授業目標	1. 指定保育士養成施設における教育課程の全体を通して、保育士として必要な保育に関する専門的知識及び技術、幅広く深い教養及び総合的な判断力、専門職としての倫理観等が習得、形成されたか、自らの学びを振り返り把握する。 2. 保育実習等を通じた自らの体験や収集した情報に基づき、保育に関する現代的課題についての現状を分析し、その課題への対応として保育士、保育の現場、地域、社会に求められることは何か、多様な視点から考察する力を習得する。 3. 1及び2を踏まえ、自己の課題を明確化し、保育の実践に際して必要となる基礎的な資質・能力の定着をさせる。				
到達目標1	興味のあるテーマについて調査、分析、考察、発表を通じ、保育に関する物事に主体的、意欲的に関わることができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)		レポート等提出物(20点)+発表(30点)提出物は期限を守ること発表への参加は必須事項である	
到達目標2	他者に伝える力を身に付けると同時に、他者の意見を取り入れながら問題解決する方法を身に付けることができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)		少人数のグループディスカッションへの参加、発表者に対するリアクションペーパーの提出など授業への意欲的な姿勢(50点)	
授業方法	これまでの自らの学習を各自が振り返り、グループ討論や個別指導をまじえ、自身が興味のあるテーマについて調査をし、まとめ、発表をする演習中心				
授業計画	1 オリエンテーション～授業概要の説明～				
	2 テーマの設定～関心を明確にする～				
	3 テーマの設定～テーマを決める・関心の深め方～				
	4 研究のスタイル調査・分析・考察の方法				
	5 中間発表に向けての個別指導及びレジュメの作成①				
	6 中間発表に向けての個別指導及びレジュメの作成②				
	7 中間報告及びディスカッション①				
	8 中間報告及びディスカッション②				
	9 中間報告を踏まえ、最終発表に向けた課題の点検、個別指導、レジュメ作成及び発表準備①				
	10 発表に向けての課題の点検、個別指導、レジュメ作成及び発表準備				
	11 発表①				
	12 発表②				
	13 発表③				
	14 発表④				
	15 発表及び総評				
必須テキスト	特に指定なし、適宜資料を配布する				
参考文献	特に指定なし、適宜紹介する				
担当教員の専門分野等	専門分野:社会福祉学・子育て支援、保育実践演習				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	20 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	20 %	
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	20 %	

2023年度 講義要綱

科 目	子どもと保育 選択必修 4単位 講義		講 師	佐藤 めぐみ
授業概要	保育の本質、目的、意義を実践的に学ぶ。 実習生としての基礎知識、技量を身につけ、実習への準備をすすめながら、実習への期待を持つ。			
授業目標	保育所の基本的な事柄を学び、実習について準備を進める。 現場活動を通して、実践で活躍する人材へと成長する。			
到達目標1	実習への準備の基本として、授業に毎回出席する、提出物の期限を守る、報連相を行うことができる。(①コマ目)	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み(20点)、課題(15点)、提出物(15点)	
到達目標2	実習をイメージしながら、実習に必要なスキルを習得する。(②コマ目)	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み(20点),課題(15点),提出物(15点)	
授業方法	実習をイメージするために必要な基礎知識を学びと共に、手遊びや折り紙など実践的なスキルを高める。			
授業計画	1 「オリエンテーション」授業のルールと自分の学ぶべき事を理解する			
	2 「保育所的一天」一日のながれを知り、実習をイメージする			
	3 「森口先生の特別講演」保育現場の先生の講演により、保育の重要性を理解する			
	4 「環境図」実習日誌の最初のステップとして、環境図をかくことができる			
	5 「スケッチブックシアター」の制作と「保育所見学」の準備を行う			
	6 産学連携現場活動			
	7 「映像から学ぶ」色々な保育園があり、新人保育士の頑張っている姿から自分の将来をイメージする			
	8 「実習のながれ」を知り、実習までの道しるべをイメージする			
	9 「お礼状の書き方」を知り、実践する			
	10 「実習データDX」を実際に経験しながら、実習への知識を増やす			
	11 「日誌の書き方①」日誌の基本的な約束ごとを知り、日誌を写す			
	12 産学連携現場活動			
	13 「日誌の書き方②」保育所見学したことを日誌に記入する			
	14 「日誌の書き方③」初めての日誌を完成させ体験をする			
	15 「まとめ」前期授業の中で実習にむけて自分が成長した事を確認する			
必須テキスト	なし			
参考文献	なし			
担当教員の専門分野等	実務経験のある教員による授業 幼稚園教諭及び保育士資格を持ち、幼稚園または保育士としての実務経験がある教員が、その経験に基づいた指導を行う科目である。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	20 %	主体性 素直 思いやり	20 %
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	20 %

2024年度 講義要綱

科 目	子どもと遊び		選択必修 2単位 講義	講 師	荒巻 シャケ
授業概要	あそび歌・パネルシアター・絵本・アナログゲーム・素材遊びなど、さまざまに遊びを体験する中で、自分自身が楽しさを実感しながら遊びについて考えていく授業です。遊びを覚えることが主ではなく、科目名の通りに「子どもと遊び」について考えていくことを一番の柱にしています。授業ごとに振り返りシートの記入があります。				
授業目標	○「子どもが」主語になることを意識しながら遊びについて考えていく。 ○自分の中の子ども心と向きあっている ○友達と対話しながら遊びを深めている ○遊びとは?について考える ○べき・ねばならないから解放される				
到達目標1	○一つの遊び方にとらわれず、いろんな角度で遊びを考えられるようになる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業内の遊びへの積極性 50点		
到達目標2	○子どもが自発的に遊ぶことへの興味関心を深める。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	グループワークへの参加姿勢 20点 振り返りシートの記入 30点		
授業方法	授業ごとに遊びのテーマがあり、実際に遊びながら、楽しさを感じたり、時にはグループにわかれて対話しながら、遊びを深めていく。				
授業計画	1 講師のオリジナルあそび歌で実際に遊ぶ。 2 替え歌創作で、遊びに対する柔軟性を養う 3 パネルシアターの基礎① パネルシアターの基本について学びつつ、パネルシアター作る。 4 パネルシアターの基礎② 3回目で作ったパネルシアターを実際に動かして体験してみる。 5 子どもの言葉の面白さ・保育者の言葉がけなど、遊びながら言葉について考える。 6 身近な物を使った遊び① 昔懐かしい折り紙や、紙を使った簡単なおもちゃを作って遊ぶ。 7 身近な物を使った遊び② バンダナやハンカチなど、布を使って内に合わせて遊んだり、布で動物など作ったりする。 8 絵本の読み聞かせについて学んだり、赤ちゃん絵本の世界について学ぶ。 9 埼玉県の認定こども園の映像から、子どもの遊ぶ環境について考える。 10 アナログゲーム① 主に3歳～5歳向けのアナログゲームで遊ぶ。 11 アナログゲーム② 主に5歳～8歳向けのアナログゲームで遊ぶ。 12 簡単なあやとりで遊びつつ、あやとりの歴史についても知る。 最終課題の発表とグループ決め。 13 課題の準備日1日目 14 課題の準備日2日目 15 各グループごとに調べた「遊び」について発表する。				
必須テキスト	○パネルシアターキット モクモクくものレストラン ○その他、授業ごとに必要な物はお知らせします。				
参考文献	必要に応じて授業ごとに紹介				
担当教員の専門分野等	年間120公演以上の子ども達との豊富なあそび歌実践。 保育士としての実務経験。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	20 %	
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	20 %	

2024年度 講義要綱

科 目	子どもの食と栄養実習 講義		選 択 必 修 1 単 位	講 師	高 尾 優
授業概要	子どもの食と栄養の講義で学んだことを基礎として実際に献立の作成や調理を行う。乳児期から幼児期にかけて食事の形態がどのように変化していくのか、どのように調理するのか実習を通して学習する。また、子どもへの食育について計画し、実施する。				
授業目標	1. 子どもの発育・発達と食生活の関連について実践する。 2. 保育における食育について考え実践する。				
到達目標1	子供の食について口腔機能の発達と食事形態を理解し、離乳食や幼児食が作れるようになる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	離乳食・幼児食実習への取り組みおよび課題の提出 (50点)		
到達目標2	子供の食の問題について考え、問題を改善するための食育を行うことができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	食育の課題の作成および発表 (50点)		
授業方法	子どもの成長の段階に合わせた調理実習。 食育の計画、媒体の作成、発表を行う。				
授業計画	1 オリエンテーション 栄養計算と献立作成について				
	2 献立作成実習 栄養バランスの取れた食事について考え献立を作成する				
	3 調乳、離乳食の説明				
	4 調乳実習				
	5 離乳食実習1 (5～6か月、7～8か月)				
	6 離乳食実習2 (9～11か月、12～18か月)				
	7 幼児食について考える				
	8 幼児食実習(幼児の間食)				
	9 アレルギー食説明				
	10 アレルギーのある子供の食事を計画する、アレルギー児への対応について				
	11 子供の食の問題点について				
	12 子供の食の問題点を改善するための食育について				
	13 食育媒体を作る				
	14 食育媒体を作る				
	15 食育発表				
必須テキスト	1年次の子供の食と栄養で使用したテキスト				
参考文献					
担当教員の専門分野等	小児栄養学(食育・食物アレルギー)				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %	
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	40 %	

2024年度 講義要綱

科 目	合唱と合奏		選択必修 2単位	講 師	上田 亜津子、浦 啓子、 楠野 麻衣、杉橋 祥子、 高橋 裕希子、藤村 秀子
授業概要	1年次に学んだ子どもの歌を中心としたレパートリーについてどのように現場で子どもたちと楽しんでいくか、自ら工夫しながら、コードによる簡易伴奏も含めより良い支援の方法を身に付けていく。15回の授業をピアノ等個人レッスン7回、クラス全体での歌遊びや合唱の授業8回(オンライン授業も含む)に設定し、ほぼ隔週に受講していき、保育実習に向けて実践力を養う。				
授業目標	1. 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容とねらいを理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を自身のスキルに合わせて自ら工夫して実践的に習得する。 2. 保育現場で活用できる教材を中心に、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。				
到達目標1	個人レッスン(ピアノ等)では保育実習に向けて生活の歌や現場ですぐ楽しめる曲を2〜3曲仕上げる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	個人レッスンや自主練習への能動的な取り組み(20点) 実技試験発表(30点)		
到達目標2	全体授業では、環境、生活、人間関係等、様々なねらいに応じた歌遊びの現場での楽しみ方を身に付け、またハーモニー(合唱)を演習し、互いに聞き合い、協働の喜びを共有することが出来る。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	グループ演習への積極的参加度(20点)、実技試験発表(30点)		
授業方法	15回の授業をピアノ個人レッスン7回、クラス全体での歌遊びや合唱の演習授業8回(オンライン授業も含む)に設定し、ほぼ隔週に受講していく。 ★13回目はピアノ等個人レッスンの実技試験発表、15回目は歌遊び合唱等の全体授業の実技試験発表となります。				
授業計画	1 全体授業。オリエンテーション。ピアノ個人レッスンのグループ分け、15回の配分、進度表の書き方等の確認。 2 個人レッスン(ピアノ等)★開始時はポータルで発表される指定のレッスン室へ集合してください。 3 全体授業。現場で役立つ声の出し方(呼吸法・発声法)子どもの歌や合唱、リズム遊び等の演習、実習への準備。 4 個人レッスン。 5 全体授業。 6 個人レッスン。 7 全体授業。 8 個人レッスン。 9 全体授業。 10 個人レッスン。 11 全体授業。 12 個人レッスン。実技試験リハーサル等。 13 個人レッスン実技試験発表。 14 全体授業。歌遊びや合唱の実技試験リハーサル等。 15 全体授業。実技試験発表(小グループまたは全体で)				
必須テキスト	『現場で役立つ幼稚園教諭・保育士の為のピアノ入門』ドレミ出版 『ポケットいっぱいの歌』教育芸術社 ※対面時は”有線イヤホンorヘッドホン”をお持ちください				
参考文献	日本児童教育専門学校編『はじめての弾き歌い』日本児童教育専門学校編 『子どものための音楽表現技術』萌文書林				
担当教員の専門分野等	専任:木下裕子 東京藝術大学卒業。公財日本オペラ振興会育成部第6期修了。声楽、ピアノ、合唱指導、リトミック指導。日本ダルクローズ音楽教育学会、全日本リトミック音楽教育研究会会員。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	15 %	
	他者と関わる力	15 %	専門的知識・技術	40 %	

2024年度 講義要綱

科 目	保育教材研究		選択必修 2単位 講義	講 師	加藤 ふじこ
授業概要	これまで獲得した基礎的な造形技法や、実習における実践的視点を踏まえ、多種多様な道具材料を工夫して課題制作を行う。 また、現場での子どもの造形活動における認識を深めるために、自ら「失敗を恐れず遊びの中で想像力を養う子どもの造形活動」を体験する。 これにより、造形活動の指導のポイントや子どもの表現活動の援助について学ぶ。				
授業目標	子どもの創作活動を迫体験し、想像力を広げる。将来の現場実践のため、教材について視野を広げる。				
到達目標1	授業に参加し、保育教材としての造形を理解する。そして授業時間内に製作できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)		授業への参加。取り組んだ内容、回数で評価する(常識的に考えて相応しくない受講態度の場合、評価できない) 45点＋創意工夫5点	
到達目標2	将来、子どもの遊びを援助するため、幼児の絵画を理解し、造形技術を習得、実践できる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)		作品提出(作品を撮影しteamsに画像を提出。提出回数やコメント、締切日厳守で評価する 45点 ＋その他 ①グループワーク等での周囲との協力 ②制作後の清掃・片付け等の社会的マナー ③期日までの課題提出、出席状況、課題提出状況等の自己管理能力等 5点	
授業方法	1.実技 2.座学 (基本毎回課題提出)＊社会情勢や進行状況により内容や順番を適宜変更				
授業計画	1 前提講義:講師挨拶、授業受講のルール、コウモリ、クロネコの制作				
	2 お面づくり:画用紙等				
	3 絵画の援助:講義:レポート提出:苦手な子への援助等(オンライン)				
	4 衣装づくり:ポリ袋(進行状況によっては他の授業をなくし2週間行う)				
	5 素材研究:アルミホイル:粘土のように自由な形を作る				
	6 素材研究:ボンド:ボンドに絵の具を混ぜ、形を整える				
	7 レッジョの座学:講義:笑い顔と泣き顔				
	8 レッジョの実践①:屋外活動:自然物で絵画制作				
	9 感触を楽しむ:講義:レポート提出:泥遊び等(オンライン)				
	10 フィンガーペイントによる絵画制作				
	11 レッジョの実践②:光を用いた作品制作				
	12 紙の加工:はらぺこあおむし				
	13 イラスト練習:簡単な絵の描き方:季節の絵				
	14 虫ピンを使った動く工作またはリサイクル廃材を用いた制作				
	15 お花紙を使った絵画製作または手作り双六遊び				
必須テキスト	特に指定なし				
参考文献	適宜紹介する				
担当教員の専門分野等	加藤ふじこ:絵本作家、イラストレーター				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %	
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	40 %	

2024年度 講義要綱

科 目	保育内容の理解と方法・身体表現遊びⅡ 講義		選択必修 1単位	講 師	浅井 信史
授業概要	幼児期の心身の育ちの中で身体表現遊び(幼児体育)がどのように貢献できるかを学びます。健康とは、体育とは、運動能力とは、発育、発達、成長とはどのような言葉の定義があるか学びます。				
授業目標	1.子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。 2.保育における教材等の活用及び作成と、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。				
到達目標1	①遊びの重要性を理解する。 ②遊びをデザインできるようになる ③遊びのカリキュラムを構想できるようになる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	意欲・関心・態度(20%) 提出物(10%) 授業内の発表(20%)		
到達目標2	①様々な運動遊びを実際に身体を動かして経験し、集団の前でプレゼンテーションができる。 ②身体表現遊びに関する言葉の概念規定を、自分なりに説明ができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	グループワークへの参加度(10%)最終レポート(20%)出席率(20%)		
授業方法	講義形式、グループワーク・トークキング(GW)、DVD視聴、レポート、実技指導で様々な学習体験をする。				
授業計画	1 幼児の身体表現遊びについて概観する。 2 幼児期の身体発達の特徴について身体活動の内容に注目して概説する。 3 幼児期の身体発達の特徴について体力に注目して概説する。 4 幼児期の運動遊びと学力の関係について概説する。 5 幼児期の運動遊びと健康の関係について概説する。 6 かけっこ遊びを体験しながら活動の工夫について考える。 7 マット遊びを体験しながら活動の工夫について考える。 8 遊びのデザインについて時間の工夫に注目して考える。 9 遊びのデザインについて仲間と空間の工夫に注目して考える。 10 模擬保育を行い、より良い指導を考える。 11 模擬保育を行い、より良い指導を考える。 12 模擬保育を行い、より良い指導を考える。 13 模擬保育を行い、より良い指導を考える。 14 模擬保育を行い、より良い指導を考える。 15 模擬保育を振り返り、まとめ、より良い保育を行う支援について考える。				
必須テキスト	特に指定なし				
参考文献	保育所保育指針解説書				
担当教員の専門分野等	【浅井信史先生】 幼児体育指導員23年間勤め、現在学校法人菊地学園認定こども園しらこぼと幼稚園園長				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	20 %	
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	20 %	

2023年度 講義要綱

科 目	選択必修 1単位 保育内容の理解と方法・音楽遊びⅡ 講義		講 師	上田 亜津子、金沢 洋子、木下 裕子、島内 亜津子、豊嶋 祐壹、山崎 洋子
授業概要	子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境にも目を向け、子どもの生活と遊びを豊かに展開するための音楽表現の基礎を学び、感じたことや考えたことを自主的に表現できる力を養う。コードネームによる簡易伴奏の仕組みを知り、まずハ長調の曲で演習していく。 ※個人レッスンの待機時間も含め、電子ピアノで自主練習をおこなう際、感染予防のため必ずイヤホンまたはヘッドフォンを持参してください。			
授業目標	1. 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な音楽的知識や技術を実践的に習得する。 2. 保育現場で活用できる教材を中心に、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。			
到達目標1	・教科書や「はじめての弾き歌い」のハ長調のコードネームによる弾き歌い等について自主練習を行い、予習復習したうえで個人レッスンに臨み、子どもたちへの視点を持った弾き歌いが出来る。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	個人レッスンと自主練習への取り組み度(50点)、実技試験発表(50点)	
到達目標2	様々な子どもの歌を演習し互いに聞き合い、環境、生活、人間関係等のそれぞれの歌のねらいを知り、自信を持って伝えたいことが表現出来る。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	グループ演習への積極的参加度(50点)、実技試験発表(50点)	
授業方法	クラスを2つのグループに分け、45分ずつ教室を入れ替わり、ピアノを中心とした個人レッスンと歌遊びのグループレッスンとを行う。グループ分けは学生ポータルで発表されるので、各自確認すること。またオンラインの個人レッスンでは画面に手元を映すよう工夫すること。			
授業計画	1 前・後半に分かれて各教室でのオリエンテーション。(A ②グループに分かれて45分で入れ替わる) 2 ①ピアノ等による個人レッスン／②歌遊びのグループレッスン。以下の項目について学生の状況に合わせて複合的に盛り込み進めていく。 3 ①ピアノ等による個人レッスン／②保育士に必要な音楽基礎知識(五線紙は授業内で配布する。) 4 ①ピアノ等による個人レッスン／②現場で役立つ声の出し方(呼吸法・発声法) 5 ①ピアノ等による個人レッスン／②子どもの歌の持つ役割や意義を考察する。 6 産学連携 7 ①ピアノ等による個人レッスン／②わらべ歌・手遊び歌の演習 8 ①ピアノ等による個人レッスン／②童謡・唱歌等の子どもの歌の演習 9 ①ピアノ等による個人レッスン／②簡単な2声のハーモニー(共働作業を楽しむ) 10 ①ピアノ等による個人レッスン／②リトミックを含む歌遊びの演習 11 ①ピアノ等による個人レッスン／②互いに聞き合い、協力してより良い表現を目指す。 12 産学連携 13 ①ピアノ等による個人レッスン／②個人レッスンによる苦手克服のためのアドバイス。 14 実技試験に向けてのリハーサルと個別指導 (A ②共) 15 実技試験(発表会)と各自の振り返り(A②共)			
必須テキスト	『現場で役立つ幼稚園教諭・保育士の為のピアノ入門』ドレミ出版 『ポケットいっぱいの歌』教育芸術社			
参考文献	『はじめての弾き歌い』日本児童教育専門学校編			
担当教員の専門分野等	専任: 木下裕子 東京藝術大学卒業。公財日本オペラ振興会育成部第6期修了。声楽、ピアノ、合唱指導、リトミック指導。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10% %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10% %
	社会人としての基本	10% %	主体性 素直 思いやり	20% %
	他者と関わる力	10% %	専門的知識・技術	40% %

2024年度 講義要綱

科 目	保育内容の理解と方法・造形遊びⅡ 選択必修 1単位 講義			講 師	目黒 祥元
授業概要	保育における教材等の活用及び制作と展開を実習する 制作した作品は提出いただき、評価資料とします。構内の壁面装飾にも使用します。				
授業目標	1年で学んだことを基礎にしつつ、幼児造形の枠にとらわれない教材や技術も取り入れて実習し応用力を養う				
到達目標1	基礎技術を基にして発展的な取り組みができるようになる	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	課題の提出ができている(30点) 提出作品の評価(20点)		
到達目標2	課題に自分なりの工夫を、どのように落とし込んでゆくかを楽しめるようになる 準備から片付けまで含めて、造形遊びの大切な取り組みであると考えて必要な配慮ができるようになる	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	制作の展開を考えて必要な準備と片付けができている(20点) 課題制作や壁面装飾などにおいて、主体的に取組みができている(30点)		
授業方法	制作は、授業時間内に行い、持ち帰りの制作は原則認めません 課題作品は、授業内に提出してください ＊状況により授業内容の予定は、変更する場合があります				
授業計画	1 後期の授業の進め方と内容の説明、準備など 2回目から実習する版画の説明と構想				
	2 インクで刷る版画を体験しその作品を使った壁面装飾を製作する				
	3 オンライン				
	4 インクで刷る版画を体験しその作品を使った壁面装飾を製作する				
	5 ダンボール、各種用紙、パルプ粘土を主体に、ごっこ遊びを想定したお店を作る				
	6				
	7				
	8				
	9 オンライン				
	10				
	11 モダンテクニックで出来上がった作品を素材として使い、制作する				
	12				
	13				
	14 墨汁ではなく墨をするところから体験して絵を描く				
	15				
必須テキスト					
参考文献					
担当教員の専門分野等	美術家				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	5 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %	
	社会人としての基本	5 %	主体性 素直 思いやり	20 %	
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	50 %	

2024年度 講義要綱

科 目	保育内容の理解と方法・言葉遊びⅡ		選択必修 1単位 講義	講 師	本多 ちかこ、奥谷 敏彦
授業概要	[川北]絵本を作る楽しさを学ぶ。 [本多]紙芝居の特性を知り、演じ方と制作を学ぶ。 [横山]子どもとのコミュニケーションを豊かにしたり、子どもの語彙を豊かにする言葉遊びを、様々な視点から学ぶ。				
授業目標	1. 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。 2. 保育における教材等の活用及び作成と、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。				
到達目標1	[川北] オリジナルの小さな絵本を制作する。 [横山] 子どもとのコミュニケーションを豊かにする様々な言葉遊びを知る。 [本多] 紙芝居を作り演じることができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	[本多] 紙芝居の制作(30点)、発表(20点)		
到達目標2	[本多] 紙芝居の特性を知り、演じることによって、子どもと楽しくコミュニケーションをとることができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	[本多] 授業への出席状況(30点) 授業への取り組み度(20点)		
授業方法	[横山]絵本を中心にした講義とワークショップ形式で進める。□ [本多]紙芝居制作と実演のワークショップ及び講義 ※授業計画の順番はクラスにより異なります。 別紙オムニバス科目授業日程をご確認ください。				
授業計画	1 [横山]1 あいうえおであそぼう				
	2 [横山]2 数えて遊ぼう				
	3 [横山]3 謎で遊ぼう				
	4 [横山]4 音であそぼう				
	5 [横山]5 詩であそぼう				
	6 [本多]1 さまざまな紙芝居を見よう				
	7 [本多]2 紙芝居を作ってみよう				
	8 [本多]3 実演のポイントを知ろう				
	9 [本多]4 紙芝居の歴史と特性を知ろう				
	10 [本多]5 舞台を使って演じてみよう				
	11 [川北]1 絵本制作(1)手づくり絵本とは。				
	12 [川北]2 絵本制作(2)絵本の構造と楽しいアイディア。				
	13 [川北]3 絵本制作(3)下書きの書き方。				
	14 [川北]4 絵本制作(4)製本の方法。				
	15 [川北]5 絵本制作(5)手づくり絵本の発表と鑑賞。				
必須テキスト					
参考文献					
担当教員の専門分野等	川北: 本多:紙芝居の実演、作家 横山:絵本、紙しばい、児童書の編集歴30年				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	%	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	%	
	社会人としての基本	%	主体性 素直 思いやり	%	
	他者と関わる力	%	専門的知識・技術	%	

2024年度 講義要綱

科 目	保育実習指導Ⅱ		選択必修 1単位 講義	講 師	佐藤 めぐみ
授業概要	・保育実習Ⅰについて、グループディスカッション・個人面談・実習体験発表を通じて振り返り、評価・反省に基づいて自己課題を理解し必要な学習に取り組む ・保育実習Ⅱで臨む部分実習、責任実習のための準備を行う				
授業目標	1. 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に理解する。 2. 実習や既習の教科目の内容やその関連性を踏まえ、保育の実践力を習得する。 3. 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して理解する。 4. 保育士の専門性と職業倫理について理解する。 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。				
到達目標1	・授業に必要な話し合いや発表に積極的に参加し、学んだ知識を活かして自己学習に取り組むことができる。 ・授業内の課題を期日内にきちんと提出することができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み(20点)、提出物(20点)		
到達目標2	・責任実習、部分実習のために保育教材の製作および指導案の立案が出来る。 ・模擬保育の実践発表を行うことが出来る。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	発表・模擬保育(40点)、テスト(20点)		
授業方法	・講義、演習(グループワーク)および実技・発表 ・保育実習Ⅰの振り返りとともに模擬保育の実践、責任実習指導案を完成させるための自己学習				
授業計画	1 授業オリエンテーション(授業概要・目標・評価方法・持ち物等の説明)				
	2 主活動の指導計画				
	3 実習課題と個人票の下書き				
	4 模擬保育に向けて①(作って遊ぶ活動の選択/ねらい)				
	5 模擬保育に向けて②(教材準備)				
	6 保育現場職員とのワークショップ				
	7 模擬保育に向けて③(導入の意味)				
	8 模擬保育に向けて④(材料の配布・説明・遊びの展開)				
	9 試験と模擬保育について確認				
	10 模擬保育実践1				
	11 試験「責任実習指導計画」				
	12 模擬保育実践2				
	13 模擬保育実践3				
	14 わくわくタイムの準備と確認事項				
	15 わくわくタイム(グループワーク)				
必須テキスト	保育実習指導1aでを使用した「フォトランゲージで学ぶ子どもの育ちと実習日誌・指導計画」				
参考文献	授業中に適宜紹介				
担当教員の専門分野等	幼稚園教諭または保育士としての実務経験があり、幼稚園教諭免許状及び保育士資格をもつ教員が、その経験に基づいた指導を行う				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	5 %	
	社会人としての基本	20 %	主体性 素直 思いやり	5 %	
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	40 %	